

科目名	声楽実技研究 I	科目ナンバリング	VM1M1C01		
担当者	桑原 理恵他				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABD
備考	※声楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	歌唱の基本である身体の使い方や呼吸法を理解し、豊かな響きのある声で各自に応じた楽曲が演奏できる。 * 実技試験は3分以上5分以内の演奏、曲数、楽曲の種類は問わない。			
授業の概要	歌曲を主な題材として歌唱の基本である身体の使い方、呼吸法を学びながら豊かな母音の響きのポジションを探る。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	レッスンの概要説明 歌う姿勢・マナーの指導	シラバスを読み授業の概要をかくにんする	学修計画を立てる
	2	各自課題曲1(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	3	各自課題曲1(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	4	各自課題曲1(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する
	5	各自課題曲1(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	6	各自課題曲2(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	7	各自課題曲2(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	8	各自課題曲2(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する

	9	各自課題曲2(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	10	各自課題曲3(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	11	各自課題曲3(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	12	各自課題曲3(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する
	13	各自課題曲3(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	14	実技試験に向けたまとめ1 (歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しどう表現したいかをまとめる
	15	実技試験に向けたまとめ2 (伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる

使用教科書	楽譜を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	声楽実技研究Ⅱ	科目ナンバリング	VM1M1C02		
担当者	桑原 理恵他				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABD
備考	※声楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	歌唱の基本である身体の使い方や呼吸法を理解し、豊かな響きのある声で各自に応じた楽曲が演奏できる。 * 実技試験は3分以上5分以内の演奏、曲数、楽曲の種類は問わない。			
授業の概要	声楽実技研究Ⅰにひきつづき、歌曲を主な題材として歌唱の基本である身体の使い方、呼吸法を学びながらディクションと歌唱法のつながりを学ぶ。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要をかくにんする	学修計画を立てる
	2	各自課題曲4(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	3	各自課題曲4(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	4	各自課題曲4(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する
	5	各自課題曲4(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	6	各自課題曲5(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	7	各自課題曲5(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	8	各自課題曲5(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する

	9	各自課題曲5(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	10	各自課題曲6(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	11	各自課題曲6(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	12	各自課題曲6(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する
	13	各自課題曲6(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	14	実技試験に向けたまとめ1 (歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しどう表現したいかをまとめる
	15	実技試験に向けたまとめ2 (伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる

使用教科書	楽譜を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	器楽実技研究 I (ピアノ)	科目ナンバリング	PS1M1C09		
担当者	眞鍋 協子他				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABD
備考	※ピアノコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	楽曲の様式を理解しながら、確かな技術と表現力を養うことを目的とする。専門的な知識、態度を兼ね備えられる			
授業の概要	基礎的な技術の確立と向上をはかりながら、エチュード及びバロックの作品を修得する ・エチュード(クラマー・ビュロー クレメンティ、ツェルニー50番、モシュコフスキー等) ・J.Sバツハ(インヴェンション・シンフォニア・平均律等)			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	前期の学習計画を立てる ピアノの基礎であるスケールを全調マスターする	レッスンまでに1曲完成させておく	指示された事柄について練習を進める
	2	基礎技能の訓練① スケールとアルペジオ全調をマスターする	スケール・アルペジオの訓練	不得意な調の克服
	3	基礎技能の訓練② エチュード(クラマー・ビュロー、ツェルニー50番等)進度に合った楽曲を選ぶ	練習曲集の中から選択して弾いてみる	曲目を決定後、練習する
	4	エチュードの作品を学ぶ① 奏法を中心に行う	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める
	5	エチュードの作品を学ぶ② 打鍵法と運指法を中心に学ぶ	楽譜の指使いを中心に学ぶ	正しい運指を身に着ける
	6	エチュードの作品を学ぶ③ 和声を中心に楽曲分析	自分で分析してレッスンに臨む	和声感を身に着ける
	7	バロックの作品を学ぶ① バロック音楽の作曲技法、構成を研究し技術の向上をはかる	バロック音楽について調べる	バロック音楽の時代背景を学ぶ
8	バロックの作品を学ぶ② 時代背景・様式を中心に学修する	バロック様式の特徴を調べる	バロック音楽の時代様式を学ぶ	

	9	バロックの作品を学ぶ③ 奏法を中心に学修する	多声音楽について調べる	各声部の弾き分け
	10	前期課題曲へのアプローチ法を探る	各自の課題曲を練習	読譜の徹底
	11	課題曲を学ぶ① 時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の時代様式を調べる	指示された事柄について練習を進める
	12	課題曲を学ぶ② 試験曲の形式・和声を中心に学修する	曲の形式を調べる	形式に基づいた練習
	13	課題曲を学ぶ③ 強弱法・奏法を中心に学修する	音の強弱に注目して練習する	強弱法に基づいた練習
	14	課題曲の完成度を高める① 発表のための奏法の完成	奏法を学ぶ	指示された事柄について練習を進める
	15	課題曲の完成度を高める② 発表のための表現法・強弱・音色の完成	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める

使用教科書	各担当教員が、推薦・指定する楽譜,各個人に合わせた楽曲を選択する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度(複数の教員による採点)

科目名	器楽実技研究Ⅱ(ピアノ)	科目ナンバリング	PS1M1C10		
担当者	眞鍋 協子他				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABD
備考	※ピアノコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	楽曲の様式を理解しながら、確かな技術と表現力を養うことを目的とする。専門的な知識、態度を兼ね備えられる			
授業の概要	古典派の作曲家の作品を習得する。ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェン等のソナタを学ぶことにより、ソナタ形式を理解する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	学習計画を立てる	レッスンまでに1曲完成させておく	指示された事柄について練習を進める
	2	古典派の楽曲を学ぶ① 時代背景・様式を中心に学修する	古典派の音楽について調べる	古典派の時代背景を復習する
	3	古典派の楽曲を学ぶ② 形式・和声を中心に学修する	ソナタ形式を調べる	ソナタ形式を踏まえた練習
	4	古典派の楽曲を学ぶ③ 奏法を中心に学修する	和声感を身に着ける	奏法の追求
	5	課題曲の読譜① 時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の時代背景を調べる	指示された事柄について練習を進める
	6	課題曲の読譜② 形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	ソナタ形式の分析
	7	課題曲を分析する① 奏法を中心に学修する	古典派の奏法を作曲家に即して練習	指示された事柄について練習を進める
8	課題曲を分析する② 和声を中心に楽曲分析をする	和声を調べる	転調を意識して練習	

	9	課題曲を分析する③ 奏法・音色を中心に学修する	運指および奏法の 予習	奏法の掘り下げ
	10	課題曲を分析する④ 表現法を中心に学修する	楽譜をよく見て強 弱をつける	読譜の徹底
	11	課題曲を分析する⑤ 音色を中心に学修する	作曲家に即した音 色作り	音色の追求
	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める
	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の 調和
	14	課題曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して 練習	指示された事柄に ついて練習を進 める
	15	総括	指示された内容ま で到達するよう練 習する	指示された事柄に ついて練習を進 める

使用教科書	各担当教員が、推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度(複数の教員による採点)



科目名	器楽実技研究 I (管弦打)	科目ナンバリング	PS1M1C09		
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABDE
備考	※管弦打楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	基本的には演奏家を目指すことを前提とし、常に安定した演奏ができるように基礎となる土台を築き、高めていくことができる			
授業の概要	1年次では、今後の演奏活動等に実践および応用していく上で最も重要な「基礎力」を特に重視する。しっかりと土台を構築していくための方法を教授していく内容とする			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション(前期計画の確認 他)	シラバスにて事前に確認	授業後にその学修内容の復習
	2	導入(基礎練習に対する準備と心構え)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習
	3	呼吸法(正しい方法で基礎練習を行うための事前準備含)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習
	4	基礎練習(ウォーミングアップの正しいやり方)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習
	5	エチュード課題の設定(各担当者が指定したエチュード)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習
	6	実技試験用ソロ曲の選定	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習
	7	エチュードおよびソロ曲①(エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習
	8	エチュードおよびソロ曲②(エチュード課題後、ソロ曲の難所への対処法 他)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習

	9	エチュードおよびソロ曲③(エチュード課題後、ソロ曲の音楽表現法 他)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習
	10	エチュードおよびソロ曲④(エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習
	11	エチュードおよびソロ曲⑤(エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫 他)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習
	12	エチュードおよびソロ曲⑥(エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習
	13	ソロ曲と伴奏合わせ①(粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合わせをしておく	反省を基に伴奏合わせをする
	14	ソロ曲と伴奏合わせ②(ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの課題を修整する	反省を基に伴奏合わせをする
	15	ソロ曲と伴奏合わせ③(実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加え、更に音楽性自体も高める	反省を基に伴奏合わせをする

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定するものとする
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	前期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等)

科目名	器楽実技研究Ⅱ(管弦打)	科目ナンバリング	PS1M1C10		
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABDE
備考	※管弦打楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	基本的には演奏家を目指すことを前提とし、常に安定した演奏ができるように基礎となる土台を築き、高めていくことができる。更に後期は前期で培ったものを活かし、レベルアップを目指すものとする			
授業の概要	1年次では、今後の演奏活動等に実践および応用していく上で最も重要な「基礎力」を特に重視する。しっかりと土台を構築していくための方法を教授していく内容とする。後期はエチュードの内容が少しずつ難しくなってくるので、更なるレベルアップを図る			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	前期の反省と後期の展望について 他	前期の反省と後期の展望を考えておく	学修内容の確認と復習
	2	実技試験用ソロ曲の選定	候補曲を考えておく	学修内容の確認と復習
	3	エチュードおよびソロ曲①(エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	4	エチュードおよびソロ曲②(エチュード課題後、ソロ曲の流れについての確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	5	エチュードおよびソロ曲③(エチュード課題後、ソロ曲のダイナミクスの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	6	エチュードおよびソロ曲④(エチュード課題後、ソロ曲のオリジナル研究 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	7	エチュードおよびソロ曲⑤(エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	8	エチュードおよびソロ曲⑥(エチュード課題後、ソロ曲の難所への対処法 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習

	9	エチュードおよびソロ曲⑦(エチュード課題後、ソロ曲の音楽表現法 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	10	エチュードおよびソロ曲⑧(エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	11	エチュードおよびソロ曲⑨(エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	12	エチュードおよびソロ曲⑩(エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	13	ソロ曲と伴奏合わせ①(粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合わせをしておく	反省を基に伴奏合わせをする
	14	ソロ曲と伴奏合わせ②(ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの課題を修整する	反省を基に伴奏合わせをする
	15	ソロ曲と伴奏合わせ③(実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加え、更に音楽性自体も高める	実技試験の総括と反省

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定するものとする
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	前期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等)

科目名	創作応用演習 I (作曲)	科目ナンバリング	CR1M1N17		
担当者	西林 博子他				
担当形態	複数	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABC
備考	※作曲コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	作曲・編曲の全般に必要な知識と技術を習得し、幅広いジャンルの音楽を経験する。作曲と編曲を実践し、制作を通じて自己表現を行う基礎を理解する。			
授業の概要	1. 和声学a(和声実習)／2. 和声学b(コラール分析・演奏)／3. コード進行(クラシックだけでなくポピュラーの楽曲のコード進行を分析)／4. 鑑賞(週3曲以上の楽曲を鑑賞・レポートを作成する)／5. モチーフ作曲(授業ごとの2～4小説の課題を器楽曲にまとめる)／6. 即興演奏法／7. 作曲実習／8. 楽曲アナリーゼ			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 学修内容の説明、課題の目標と取り組み方について、制作、和声、コラール、コード進行法、鑑賞	自作品の制作、シラバスの熟読	課題の練習、演習、鑑賞
	2	和音とコードネーム① (音名、和音名、音階、コードネーム)	課題実習、鑑賞 (レポート作成)	課題復習
	3	和音とコードネーム② (コード、和音の機能)	課題実習、鑑賞 (レポート作成)	課題復習
	4	コード進行・和声実習①(3和音)	課題実習、鑑賞 (レポート作成)	課題復習
	5	コード進行・和声実習②(3和音)	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリーゼ	課題復習
	6	コード進行・和声実習①(副3和音)	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリーゼ	課題復習
	7	コード進行・和声実習②(副3和音)	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリーゼ	課題復習
	8	コラールのアナリーゼと初見演奏について①	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリーゼ	課題復習

	9	コラールのアナリゼと初見演奏について②	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリゼ	課題復習
	10	モチーフ作曲(ピアノ曲2部形式)	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリゼ	課題復習
	11	モチーフ作曲(ピアノ曲3部形式)	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリゼ	課題復習
	12	自作曲のレッスンと記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリゼ	課題復習
	13	自作曲のレッスンと記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリゼ	課題復習
	14	自作曲のレッスンと記譜について③ 楽譜の仕上げと演奏によるまとめ	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリゼ	課題復習
	15	創作応用演習 I のまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試験のための課題 演習

使用教科書	和声 I 理論と実習(音楽之友社),
	新総合音楽講座5 コード進行法(ヤマハ),
	コラール名曲集(全音楽譜出版社)
参考書・参考資料等	エレクトーン メロディーズ NEW ベストセレクション(ヤマハ)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	80%	筆記試験、実技試験、作品提出
課題/レポート	10%	鑑賞レポート(週3曲以上)	
平常点	10%	積極的な作品発表等の取り組み	

科目名	創作応用演習Ⅱ(作曲)	科目ナンバリング	CR1M1N18		
担当者	西林 博子他				
担当形態	複数	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABC
備考	※作曲コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	作曲・編曲の全般に必要な知識と技術を習得し、幅広いジャンルの音楽を経験する。作曲と編曲を実践し、制作を通じて自己表現を行う基礎を理解する。			
授業の概要	1. 和声学a(和声実習)／2. 和声学b(コラール分析・演奏)／3. コード進行(クラシックだけでなくポピュラーの楽曲のコード進行を分析)／4. 鑑賞(週3曲以上の楽曲を鑑賞・レポートを作成する)／5. モチーフ作曲(授業ごとの2～4小の課題を器楽曲にまとめる)／6. 即興演奏法／7. 作曲実習／8. 楽曲アナリゼ			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	創作応用演習Ⅱの学修課題内容の説明 課題の目標と取り組み方について	自作品の制作、シラバスの熟読	課題の練習、演習、鑑賞
	2	コード進行 和声実習(創作応用Ⅰの復習)	課題実習、鑑賞 (レポート作成)	課題復習
	3	コード進行(副属7) 和声実習(属7→Ⅰ)①	課題実習、鑑賞 (レポート作成)	課題復習
	4	コード進行(副属7) 和声実習(属7→Ⅵ)②	課題実習、鑑賞 (レポート作成)	課題復習
	5	コード進行(副属7) 和声実習(属9長調・短調)	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリゼ	課題復習
	6	コード進行(副属7) 和声実習(属9根音省略形)	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリゼ	課題復習
	7	ファンファーレについて(既成曲の分析) スコアとパート譜、移調楽器について	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリゼ	課題復習
	8	ファンファーレ制作	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリゼ	課題復習

	9	コード進行(経過和音・□aux) 和声実習(ドミナントの総括)①	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリゼ	課題復習
	10	コード進行(経過和音・□dim) 和声実習(ドミナントの総括)②	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリゼ	課題復習
	11	コード進行(経過和音・□m) 和声実習(ドミナントの総括)③	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリゼ	課題復習
	12	自作曲のレッスンと記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリゼ	課題復習
	13	自作曲のレッスンと記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリゼ	課題復習
	14	自作曲のレッスンと記譜について③ 楽譜の仕上げと演奏によるまとめ	課題実習、鑑賞 (レポート作成) 楽曲アナリゼ	課題復習
	15	創作応用演習Ⅱのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試験のための課題 演習

使用教科書	和声Ⅰ 理論と実習(音楽之友社),
	新総合音楽講座5 コード進行法(ヤマハ),
	コラール名曲集(全音楽譜出版社)
参考書・参考資料等	エレクtoon メロディーズ NEW ベストセレクション(ヤマハ)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	80%	筆記試験、実技試験、作品提出
	課題／レポート	10%	鑑賞レポート(週3曲以上)
	平常点	10%	積極的な作品発表等の取り組み



科目名	創作応用演習 I (電子キーボード)	科目ナンバリング	CR1M1N17		
担当者	中村 真貴				
担当形態	複数	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCD
備考	※電子キーボードコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	電子キーボードの演奏技術、表現力を高めていくとともに、多様なジャンルの様々な作品を数多く経験していく中で、アイデンティティをもった自分自身の音楽表現を追求し、音楽を通して人間性豊かな情操を養う。			
授業の概要	専攻実技の基本的な奏法について楽曲を通して学び発展させる。 ラインハルト、テクニック、即興、モチーフ、ポピュラーからクラシック、オリジナル、既成の曲、編曲、楽器の機能、レジストレーション、リズムと内容が多岐にわたる。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 前期の授業計画 各学生の目標・課題 基礎知識の確認	シラバス確認	課題の習得・練習
	2	ラインハルト(3度の重音奏法)、スケール 楽曲演奏1 ①譜読みと簡単な音色設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	3	ラインハルト(6度の重音奏法)、スケール 楽曲演奏1 ②テクニック的な問題の克服	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	4	ラインハルト(レガート奏法)、スケール 楽曲演奏1 ③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	5	ラインハルト(親指のグリッサンドレガート奏法)、スケール 楽曲演奏2 ①譜読みと簡単な音色設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	6	ラインハルト(各指のグリッサンドレガート奏法)、スケール 楽曲演奏2 ②テクニック的な問題の克服	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	7	ラインハルト曲1(読譜)、スケール 楽曲演奏2 ③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	8	ラインハルト曲1(レジスト)、スケール・カデンツ 試験曲① アレンジ・大まかな音色を入力	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く

	9	ラインハルト曲1(分析)、スケール・カデンツ 試験曲② アレンジ・音色を細かく設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	10	ラインハルト曲2(読譜)、スケール・カデンツ 試験曲③ アレンジ・エフェクトなど細部の設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	11	ラインハルト曲2(レジスト)、スケール・カデンツ 試験曲④ アレンジ仕上げ・音色のツメ・演奏(テクニック面の確認)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	12	ラインハルト曲2(分析)、スケール・カデンツ 試験曲⑤ アレンジ仕上げ・音色のツメ・演奏(テクニック面の克服)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	13	ラインハルト曲3(読譜)、スケール・カデンツ 試験曲⑥ 音色・演奏表現の向上(双方から演奏をまとめる)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	14	ラインハルト曲3(レジスト)、スケール・カデンツ 試験曲⑦ 音色・演奏表現の向上(双方から演奏をまとめる)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	15	ラインハルト曲3(分析)、スケール・カデンツ 試験曲⑧ 試験曲の全体的な仕上げ、楽譜の確認	試験問題の練習	実技試験の準備

使用教科書	ラインハルトオルガン教本50番(音楽之友社),
	新総合音楽講座5コード進行法(ヤマハ),
	その他、楽譜等をレッスン時に指定
参考書・参考資料等	エレクtoon メロディーズ NEW ベストセレクション(ヤマハ)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	課題曲、自由曲、即興、モチーフ
課題/レポート	10%	課題を習得・練習	
平常点(態度)演奏活動	10%	授業中の指示に対する正しい練習	

科目名	創作応用演習Ⅱ(電子キーボード)	科目ナンバリング	CR1M1N18		
担当者	中村 真貴				
担当形態	複数	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCD
備考	※電子キーボードコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	電子キーボードの演奏技術、表現力を高めていくとともに、多様なジャンルの様々な作品を数多く経験していく中で、アイデンティティをもった自分自身の音楽表現を追求し、音楽を通して人間性豊かな情操を養う。			
授業の概要	専攻実技の基本的な奏法について楽曲を通して学び発展させる。 ラインハルト、テクニック、即興、モチーフ、ポピュラーからクラシック、オリジナル、既成の曲、編曲、楽器の機能、レジストレーション、リズムと内容が多岐にわたる。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 前期の授業計画 各学生の目標・課題 基礎知識の確認	シラバス確認	課題の習得・練習
	2	ラインハルト曲4(読譜)、即興(イントロ、エンディング)、モチーフ 楽曲演奏1 ①譜読みと簡単な音色設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	3	ラインハルト(6度の重音奏法)、スケール 楽曲演奏1 ②テクニック的な問題の克服	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	4	ラインハルト(レガート奏法)、スケール 楽曲演奏1 ③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	5	ラインハルト(親指のグリッサンドレガート奏法)、スケール 楽曲演奏2 ①譜読みと簡単な音色設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	6	ラインハルト(各指のグリッサンドレガート奏法)、スケール 楽曲演奏2 ②テクニック的な問題の克服	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	7	ラインハルト曲1(読譜)、スケール 楽曲演奏2 ③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	8	ラインハルト曲1(レジスト)、スケール・カデンツ 試験曲① アレンジ・大まかな音色を入力	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く

	9	ラインハルト曲1(分析)、スケール・カデンツ 試験曲② アレンジ・音色を細かく設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	10	ラインハルト曲2(読譜)、スケール・カデンツ 試験曲③ アレンジ・エフェクトなど細部の設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	11	ラインハルト曲2(レジスト)、スケール・カデンツ 試験曲④ アレンジ仕上げ・音色のツメ・演奏(テクニック面の確認)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	12	ラインハルト曲2(分析)、スケール・カデンツ 試験曲⑤ アレンジ仕上げ・音色のツメ・演奏(テクニック面の克服)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	13	ラインハルト曲3(読譜)、スケール・カデンツ 試験曲⑥ 音色・演奏表現の向上(双方から演奏をまとめる)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	14	ラインハルト曲3(レジスト)、スケール・カデンツ 試験曲⑦ 音色・演奏表現の向上(双方から演奏をまとめる)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く
	15	ラインハルト曲3(分析)、スケール・カデンツ 試験曲⑧ 試験曲の全体的な仕上げ、楽譜の確認	試験問題の練習	実技試験の準備

使用教科書	ラインハルトオルガン教本50番(音楽之友社),
	新総合音楽講座5コード進行法(ヤマハ),
	その他、楽譜等をレッスン時に指定
参考書・参考資料等	エレクtoon メロディーズ NEW ベストセレクション(ヤマハ)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	課題曲、自由曲、即興、モチーフ
課題/レポート	10%	課題を習得・練習	
平常点(態度)演奏活動	10%	授業中の指示に対する正しい練習	

科目名	創作応用演習 I (ミュージックパフォーマンス)	科目ナンバリング	CR1M1N17		
担当者	西林 博子 他				
担当形態	複数	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABC
備考	※ミュージックパフォーマンスコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	I 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける II 現代のニーズにあった演奏感覚を身に付ける III 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う				
授業の概要	個人の得意とする音楽表現を学び、専門性を高めるため、実技演習として、専攻実技の基本的な奏法を楽曲を通して学び、個々のレパートリーを広げていく				
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習	
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲	入学前の課題	課題①練習・基礎練習	
	2	課題①への取り組み① 分析(背景)と演奏表現について	課題①背景について	課題①練習・基礎練習	
	3	課題①への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習・基礎練習	
	4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現について 課題①のまとめ	課題①のまとめ	課題②練習・基礎練習	
	5	課題②への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	課題②背景について	課題②練習・基礎練習	
	6	課題②への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題②アナリーゼ	課題②練習・基礎練習	
	7	課題②への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現について 課題②のまとめ	課題②のまとめ	課題③練習・基礎練習	
	8	課題③への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	課題③背景について	課題③練習・基礎練習	

	9	課題③への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題③アナリーゼ	課題③練習・基礎練習
	10	課題③への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現(音響・サウンド)について 課題③のまとめ	課題③のまとめ	試験曲練習・基礎練習
	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲家等について	楽曲アナリーゼと作曲家等について	試験曲練習・基礎練習
	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ(構成)について	試験曲練習・基礎練習
	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習・基礎練習
	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習・基礎練習
	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	創作応用演習 I のまとめ II の準備

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
平常点	10%	事前・事後学習への取り組み	
平常点	10%	演奏活動、行事への参加	

科目名	創作応用演習Ⅱ(ミュージックパフォーマンス)	科目ナンバリング	CR1M1N18		
担当者	西林 博子 他				
担当形態	複数	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABC
備考	※ミュージックパフォーマンスコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	I 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける II 現代のニーズにあった演奏感覚を身に付ける III 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う			
授業の概要	個人の得意とする音楽表現を学び、専門性を高めるため、実技演習として、専攻実技の基本的な奏法を楽曲を通して学び、個々のレパートリーを広げていく			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲	創作応用演習Ⅱの課題曲選曲	課題①練習・基礎練習
	2	課題①への取り組み① 分析(背景)と演奏表現について	課題①背景について	課題①練習・基礎練習
	3	課題①への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習・基礎練習
	4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 課題①のまとめ	課題①のまとめ	課題②練習・基礎練習
	5	課題②への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	課題②背景について	課題②練習・基礎練習
	6	課題②への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題②アナリーゼ	課題②練習・基礎練習
	7	課題②への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現について 課題②のまとめ	課題②のまとめ	課題③練習・基礎練習
	8	課題③への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	課題③背景について	課題③練習・基礎練習

	9	課題③への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題③アナリーゼ	課題③練習・基礎練習
	10	課題③への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現(音響・サウンド)について 課題③のまとめ	課題③のまとめ	試験曲練習・基礎練習
	11	後期試験への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲家等について	楽曲アナリーゼと作曲家等について	試験曲練習・基礎練習
	12	後期試験への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ(構成)について	試験曲練習・基礎練習
	13	後期試験への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習・基礎練習
	14	後期試験への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習・基礎練習
	15	後期試験への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	創作応用演習Ⅱのまとめ Ⅲの準備

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
平常点	10%	事前・事後学習への取り組み	
平常点	10%	演奏活動、行事への参加	



科目名	サウンドデザイン I	科目ナンバリング	SD1M1N25		
担当者	向野 友規・西田 和政				
担当形態	複数	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDE
備考	※サウンドデザインコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>■コピー&amp;ペーストなどのLogicの基本操作を理解できるようになる</li> <li>■オーディオインターフェイスを使用、レコーディングできるようになる</li> <li>■MIDIでのレコーディングができるようになる</li> <li>■編集ウィンドウなどを理解できるようになる</li> </ul>			
授業の概要	Logicの機能や音楽制作の基本を学ぶ。MIDIやオーディオ、またそれぞれの違いを学ぶ			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>■オリエンテーション</li> <li>■目標、未来のビジョンの記入</li> <li>■プロジェクトの立ち上げ、保存</li> <li>■パウンス ■Macの設定について</li> </ul>		
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>■MIDIとオーディオについて</li> <li>■オーディオインターフェイス、MIDIキーボードでのレコーディング</li> </ul>		
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>■基本的な操作方法を学びながら、ソフトウェア音源とオーディオを組み合わせた短い曲を作る</li> </ul>		
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>■基本的なドラムパターンの打ち込み</li> </ul>		
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>■基本的なピアノの打ち込み</li> <li>■コード進行</li> </ul>		
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>■基本的なベースの打ち込み</li> </ul>		
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>■既存曲の耳コピによる楽曲研究</li> </ul>		
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>■データの送受信(AirDrop、ギガファイル便)、バラアウト、MIDIデータの書き出し</li> </ul>		

	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Logicの詳細なウィンドウなど</li> <li>■ コントロールバーとディスプレイのカスタマイズ</li> <li>■ トラックスタック</li> </ul>		
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ キーコマンドの変更方法</li> <li>■ ソロツール、ミュートツールなど</li> <li>■ 効率の上がるショートカット</li> </ul>		
	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Logic付属のインストゥルメンツ、プリセットについて</li> <li>■ テンプレートの作り方</li> </ul>		
	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ マスタリングについての最低限の知識をつけ、簡易的なマスタリングできるようになる</li> </ul>		
	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 音響 理論と実習</li> </ul>		
	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 制作・実習</li> </ul>		
	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 制作・実習</li> </ul>		

使用教科書	
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	授業内容の習得、楽曲の完成度
	課題／楽譜	10%	正確さ
	平常点	10%	バックステージ、演奏活動への取り組み

科目名	サウンドデザインⅡ	科目ナンバリング	SD1M1N26		
担当者	向野 友規・西田 和政				
担当形態	複数	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDE
備考	※サウンドデザインコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>■シンセサイザーで基本的な音色を作ることができる</li> <li>■エフェクトについての基礎知識を学ぶ</li> </ul>			
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>■シンセサイザーやエフェクトの基礎知識を学ぶ</li> </ul>			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	■オリエンテーション		
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>■シンセサイザーの基本について①</li> <li>■基本の波形の種類、音色の違い、ADSRについて</li> </ul>		
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>■シンセサイザーの基本について②</li> <li>■LFO等</li> </ul>		
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>■シンセサイザーの基本について③</li> <li>■その他のパラメータ</li> </ul>		
	5	■ループ素材を用いての楽曲制作①		
	6	■ループ素材を用いての楽曲制作②		
	7	■ループ素材を用いての楽曲制作③		
8	■イコライザーについて①			

	9	■イコライザーについて②		
	10	■リバーブ、ディレイについて①		
	11	■リバーブ、ディレイについて②		
	12	■既存曲の耳コピーによる楽曲研究		
	13	■音響 理論と実習		
	14	■制作・実習		
	15	■制作・実習		

使用教科書	
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	授業内容の習得、楽曲の完成度
	課題／楽譜	10%	正確さ
	平常点	10%	バックステージ、演奏活動への取り組み

科目名	音楽教育演習 I	科目ナンバリング	ME1M1N34		
担当者	中村 理恵				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDF
備考	※音楽教育コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	音楽教育現場での教育活動実践のための基礎的能力を養う。 器楽指導の意義を読み解くことを通して、求められる授業のあり方を理解することができる。 器楽教材曲をアレンジすることを通して、読譜力や楽器演奏の基礎的な技能を高めるとともに教材開発について理解を深める。			
授業の概要	教材曲を生徒の能力に応じて編曲し、アンサンブルを体験する。 個に応じた指導について、テーマに沿った討議を通して、自分の考えをまとめる。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション ・演習内容の学修の進め方 ・事前課題の発表	シラバス、学生便覧を読んでおく。	自身の得意なことと課題をまとめる
	2	器楽指導の意義 ・学習指導要領改訂の趣旨 ・指導内容と学年系統	器楽の指導事項を読んでおく	学年系統を一覧にまとめる
	3	アルトリコーダーの基礎的な奏法 ・呼吸、タンギング、指使い	ソプラノリコーダーの運指を確認しておく	アルトリコーダーの運指を練習する
	4	リコーダーアンサンブル ・音色、フレージング	アルトリコーダーの運指を確認しておく	全パートをリコーダーで演奏できるように練習する
	5	リコーダーアンサンブル ・バランス、テクスチャ	アルトリコーダーの運指を確認しておく練習をしておく	選択した任意の1曲に合ったコードネームをつける
	6	アンサンブルアレンジ ・コードネーム ・和音奏の聴き合いと意見交換	コードネームについて調べておく	選択した任意の1曲に合ったコードネームをつける
	7	器楽教材の工夫 ・不得意感を抱いている生徒、技能が高い生徒への配慮と支援	つくったパートを演奏できるようにしておく	不得意な生徒、技能の高い生徒のためのパートをつくる
	8	アレンジ作品の発表(演奏)と意見交換A	工夫点をまとめておく	気づきをもとに修正する

	9	和楽器「箏」の基本的な奏法	器楽の本を読み、予習しておく	箏の奏法を知り練習する
	10	箏曲「さくらさくら」アンサンブルに挑戦	旋律が弾けるようにしておく	アンサンブルが完成できるように練習する
	11	箏を用いた授業の実際・指導と評価	意欲をもって学習に取り組んだ経験をまとめておく	意欲を引き出す教師の関わりをまとめる
	12	和楽器「三味線」の基本的な奏法	器楽の本を読み、予習しておく	三味線の奏法を知り練習する
	13	三味線を用いて民謡に挑戦	自主的に取り組めるような方法を考えておく	自己の学習成果を確認できるような方法を考えまとめる
	14	三味線を用いた授業実際・指導と評価	意欲をもって学習に取り組んだ経験をまとめておく	意欲を引き出す教師の関わりをまとめる
	15	箏か三味線の演奏発表と和楽器を用いた授業の意見交換	工夫点をまとめておく	和楽器を用いた授業づくりについてまとめる

使用教科書	中学校学習指導要領解説音楽(平成29年)(教育芸術社),
	中学生の器楽(教育芸術社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	レポート	40%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
	作品・演奏	40%	内容の深さ、演奏の正確さ
	毎時間の振り返り	20%	内容についての理解、自分なりの考え

科目名	音楽教育演習Ⅱ	科目ナンバリング	ME1M1N33		
担当者	中村 理恵				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDF
備考	※音楽教育コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	音楽教育現場における教育活動実践のための基礎的能力を養う。 歌唱指導の実演・模擬指導や簡易伴奏づくりを通して、歌唱指導についての基礎的な知識や技能を習得するとともに、音楽の諸要素についての理解を深める。			
授業の概要	発声のメカニズムや発達、さらに歌唱指導の意義を理解し、変声期の生徒に合った指導を構想する。 和声について理解し、歌唱指導に必要な伴奏を工夫し、演奏する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	歌唱指導の意義 ・学習指導要領の内容と学年系統	歌唱の指導事項 を読んでおく	学年系統を一覧 にまとめる
	2	歌唱指導の意義 ・求める声 ・模範演奏の分析	お勤めの歌声を探し、そのよさをまとめておく	中学生の演奏を聴き、声についての気づきをまとめる
	3	発声メカニズムと変声期の指導	自分の声の成長・変化をまとめておく	変声期の指導の留意点をまとめる
	4	発声指導のポイントと声のトラブル対処法	発声上のトラブルについて調べておく	発声トラブルの対処法をまとめる
	5	目標をもった発声指導	発声練習の経験をまとめておく	発声指導のポイントをまとめる
	6	歌唱共通教材分析と発声指導のポイント ・教材曲に応じた発声指導	発声練習のさせ方や伴奏を練習しておく	意見交換の内容をまとめる
	7	課題(教科書教材)の選択と指導構想	発声練習のさせ方や伴奏を練習しておく	意見交換の内容をまとめる
	8	学習活動と支援の工夫 ・教材曲との出会い	教科書の歌唱教材を歌っておく	選んだ教材曲を歌詞や階名で歌えるように練習しておく

	9	歌唱共通教材の実際 ・指導計画と授業展開	曲を選んで歌か、 伴奏を練習しておく	指導と評価について まとめる
	10	合唱指導のポイント	課題曲を歌い、伴奏 を練習しておく	自分のパートを移動 度唱で歌う
	11	合唱指導の実際と楽曲に 応じた指導の実際	合唱曲の特徴を捉え、 伴奏を練習しておく	その曲を表現するための 合唱指揮を考える
	12	合唱を通じた仲間づくり	学級づくりと合唱について 考えておく	学校教育に生かしてい きたいことをまとめる
	13	ノーテーション ・指導場面に 応じた伴奏の在り方	自作の伴奏を確か めておく	記譜を完成させる
	14	弾き歌いと歌唱指導(A) ・自作の伴奏を弾きながら、 範唱し、歌唱指導をする	自作の伴奏を練習 しておく	歌唱指導について 自分の考えをまとめる
	15	弾き歌いと歌唱指導(B) ・自作の伴奏を弾きながら、 範唱し、歌唱指導をする	自作の伴奏を練習 しておく	歌唱指導について 自分の考えをまとめる

使用教科書	中学校学習指導要領解説音楽(平成29年)(教育芸術社),
	中学生の音楽1(教育芸術社),
	中学生の音楽2・3上(教育芸術社),
	中学生の音楽2・3下(教育芸術社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	レポート	40%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
作品・演奏	40%	内容の深さ、演奏の正確さ	
毎時間の振り返り	20%	内容についての理解、自分なりの考え	



科目名	音楽療法演習 I	科目ナンバリング	MT1M1T41
担当者	立山真由美・青拓美		
担当形態	オムニバス	単位数	2単位
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次
開講時期	前期		
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士
	必修		
	音楽療法	ディプロマポリシー	
	必修	ABCDF	
備考	※音楽療法コース必修/青拓美講師による特別講座については、オリエンテーションにて詳細を説明		

授業のテーマ及び到達目標	<p>発達の諸理論についてまとめる。課題曲の練習。各論では高齢者の疾病、障がい、心理状態を理解し、高齢者領域における音楽による支援・援助の方法について多角的・理論的に説明できることを目的とする。また技法においては、健康を促進するための臨床的音楽技法を身につけることを目的とする。</p>			
授業の概要	<p>高齢者領域に関する各論及び技法を扱う。各論の学修では、学生が作成するレジュメを基に、高齢者の心身の健康及び疾病や障がい、加齢に伴う認知機能の変化を把握、知識を得る。技法では臨床場面での音楽の奏法やレパートリーなど、実践につながるスキルを身につける。</p>			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 授業の進め方、レジュメ作成について理解する	シラバスの熟読	課題曲の練習
	2	・高齢者領域における音楽療法概論 ・臨床場面での伴奏法(コードについて)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	授業内容についてまとめる 課題曲の練習
	3	・発達と音楽療法の関連を探る ・臨床場面での伴奏法(課題曲のコード奏)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	発達諸理論についてまとめる 課題曲の練習
	4	・加齢に伴う疾病と障がいの理解 ・臨床場面での伴奏法(高齢者で使用する楽曲の理解)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	加齢に伴う疾病と障がいをまとめる 課題曲の練習
	5	・健康と音楽 ・臨床場面での伴奏法(童謡・唱歌)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	健康と音楽についてまとめる 課題曲の練習
	6	・脳と音楽(仕組みと機能について) ・臨床場面での伴奏法(童謡・唱歌)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	脳の仕組みと機能についてまとめる 課題曲の練習
	7	・情動と音楽 ・臨床場面での伴奏法(歌謡曲)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	情動と音楽の関連についてまとめる 課題曲の練習
	8	・認知症についての理解 ・高齢者領域での楽曲(大正時代までの背景)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	認知症についてまとめる 課題曲の練習

	9	・認知症と音楽療法 ・高齢者領域での楽曲(昭和歌謡曲)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	認知症と音楽療法についてまとめる 課題曲の練習
	10	・非薬物療法について ・高齢者領域の楽曲(戦後の背景)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	非薬物療法についてまとめる 課題曲の練習
	11	・看取り期における音楽療法 ・高齢者領域の楽曲(昭和30年以降の背景)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	看取り期における音楽療法についてまとめる
	12	・高齢者施設の実践見学	実践見学の準備	施設見学レポート 課題曲の練習
	13	・実践見学のフィードバック ・高齢者領域の楽曲(試験曲)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	授業後の所感をまとめる 課題曲の練習
	14	音楽療法における声の使い方(時期未定) * 青拓美講師による特別講座	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	レッスンで学んだことをまとめる
	15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問) ・夏休みの課題提示	授業で学修したことを振り返る	課題曲の練習

使用教科書	ころをつなぐミュージックセラピー(ミネルヴァ書房)
参考書・参考資料等	音楽療法の手引き 音楽療法家のための(牧野出版),

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
		平常点(態度・行動観察)	10%
	レジュメ作成と発表	30%	課題への取り組み、内容の充実
	期末テスト	60%	弾き歌い、及び口頭試問の点数

科目名	音楽療法演習Ⅱ	科目ナンバリング	MT1M1T42		
担当者	立山真由美				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修			必修	ABCDF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	Iに引き続き、高齢者領域における音楽の支援・援助法について、多角的・理論的に検討することを目的とする。また技法においては、音楽療法でよく用いられる楽曲を中心に、臨床的音楽技法(コード奏による弾き歌い、初見力ほか)を身につける。			
授業の概要	各論では高齢期の様々なテーマについて、ディスカッションを交え検討・考察しながら、諸理論や対象者について学びを深めていく。また高齢者領域の近年の実践例や研究の動向を把握する。技法では、将来の実習や臨床実践に応用できる演奏の知識や実践スキルを学ぶ。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 授業の進め方、レジュメ作成について理解する 課題発表	シラバスの熟読	課題曲の練習
	2	・発達段階について ・弾き歌い(明治時代の馴染みの曲)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	3	・高齢者の生きた時代と音楽史 ・弾き歌い(大正時代の馴染みの曲)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	4	・高齢者の生きた時代と音楽史 ・弾き歌い(戦前の曲)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	5	・パーソンセンタードケアとケア技法 ・弾き歌い(軍歌)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	6	・介護予防と音楽療法① ・弾き歌い(流行歌①)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	7	・介護予防と音楽療法② ・弾き歌い(流行歌②)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	8	・高齢者領域の実践例① ・弾き歌い(流行歌③)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習

	9	・高齢者領域の実践例② ・弾き歌い(流行歌④)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	10	・音楽療法の評価と研究について ・弾き歌い(流行歌⑤)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	11	・音楽療法の評価と研究について ・弾き歌い(民謡)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	12	・高齢者施設の実践見学	実践見学の準備	施設見学レポート
	13	・実践見学のフィードバック ・弾き歌い(試験曲)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	授業後の所感をまとめる、課題曲の練習
	14	・コミュニティ音楽療法 ・弾き歌い(試験曲)	指定課題、用語について調べる、課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問)	授業で学修したことを振り返る	課題曲の練習

使用教科書	
	障害児の音楽療法 声・身体・コミュニケーション(春秋社)
参考書・参考資料等	音楽療法の手引き 音楽療法家のための(牧野出版),

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	10%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実
レジュメ作成と発表	30%	課題への取り組み、内容の充実	
期末テスト	60%	弾き歌い、及び口頭試問の点数	

科目名	ピアノ I	科目ナンバリング	NP1M4C01		
担当者	眞鍋 協子 他				
担当形態	クラス分け	単位数	1単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※	必修		選択必修	DE
備考	※ピアノコース以外必修				

授業のテーマ及び到達目標	バロック、古典派に重点を置き、曲にふさわしい奏法・様式感で演奏する力を身につける。各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習・復習してレッスンに臨むことができる			
授業の概要	基礎的な技術の習得を目指すとともに、バロック、古典派など、時代に即した演奏技術を身につける。一人一人の技能、到達度に応じた指導を行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	前期の学修計画を立てる ピアノの基礎であるスケール・練習曲等を選曲する	シラバスを読み、授業内容を確認する	指示された事柄について練習を進める
	2	ピアノの基礎技術① スケールの運指法を学ぶ	運指に注意し練習する	長調を復習しておく
	3	ピアノの基礎技術② 調と指使いのパターンを習得する	課題の調のスケールを練習する	短調を復習しておく
	4	ピアノの基礎技術③ スケールおよび練習曲による指の独立	調子記号を覚える	長調・短調を続けて弾けるよう復習しておく
	5	ピアノの基礎技術④ カデンツを習得する	カデンツの指使いを覚える	カデンツ付きのスケールの復習
	6	前期試験曲を決定し、現在の進度にあった楽曲を選択する	課題となる曲集を準備する	決定した曲の時代背景を調べる
	7	課題曲の分析① バロック・古典派など時代背景を中心に	決定した曲を練習する	曲の背景にある様式等をまとめておく
	8	課題曲の分析② バロック・古典派など形式を中心に	試験曲の形式を調べておく	曲の形式についてまとめておく

	9	課題曲の練習方法／バロック・古典派など奏法を中心に	テンポを守り練習する	研究した練習方法をまとめる
	10	課題曲の構成① 奏法を中心に	音の粒をそろえて練習する	音の質をそろえて練習する
	11	課題曲の構成② 強弱の付け方に注意して	楽譜に書かれた強弱をていねいに見直す	表現にメリハリを持たせるよう練習する
	12	課題曲の構成③ 音色を中心に	楽曲にふさわしい音色で表現する	身体の使い方を復習する
	13	構成・表現の修得① 全体の構成を考え強弱を決定する	曲を暗譜で演奏できるようにする	暗譜が不確実な箇所を克服する
	14	構成・表現の修得② 音色を中心に	暗譜で安定した演奏ができるようにする	暗譜で安定した演奏ができるようにする
	15	構成・表現の完成。後期の課題決め	授業を振り返り総まとめをする	授業で学んだことをまとめる

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度

科目名	ピアノⅡ	科目ナンバリング	NP1M4C02		
担当者	眞鍋 協子 他				
担当形態	クラス分け	単位数	1単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※	必修		選択必修	DE
備考	※ピアノコース以外必修				

授業のテーマ及び到達目標	各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習・復習してレッスンに臨むことができる			
授業の概要	基礎的な技術の習得を目指すとともに、バロック、古典派など、時代に即した演奏技術を身につける。一人一人の技能、到達度に応じた指導を行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	スケール・練習曲等を通して、前期に学んだことを振り返る	指示された課題を仕上げしておく	指示された事柄について練習を進める
	2	スケール・練習曲等を通して、レガート奏法・スタッカート奏法について学ぶ	レガート、スタッカートの奏法でスケールを準備する	タッチの多様性について復習しておく
	3	スケール・練習曲・ロマン派の小品等を通して、拍子感について学ぶ	拍子感を大切に練習する	拍子感について復習する
	4	スケール・練習曲・ロマン派の小品等を通して、演奏における姿勢、手の形について	姿勢に留意し練習する	指示された事柄について練習を進める
	5	スケール・練習曲・ロマン派の小品等を通して、身体・腕の使い方について考察する	手首・腕の脱力を意識して練習する	指示された部分を修正する
	6	後期試験曲の決定、タッチについて	試験候補曲の練習をする	指の独立の重要性についてまとめておく
	7	試験曲の分析・練習方法① (時代背景・様式を中心に)	決定した曲について調べる	曲の背景をまとめる
8	試験曲の分析・練習方法② (形式・和声を中心に)	ハーモニーに留意し練習する	曲の形式について考察する	

	9	試験曲の分析・練習方法③ (形式・和声の確立)	和声と表現を結び つけ練習する	ハーモニーと構成 を考える
	10	試験曲の構成・表現の修得① (奏法を中心に)	曲に合った音色で 練習する	思い通りの音色で 表現できるよう工 夫する
	11	試験曲の構成・表現の修得② (奏法の確立)	指・手首・腕等の 使い方を考える	表現と奏法の関 連性を考察する
	12	試験曲の構成・表現の修得③ (強弱のつけ方を中心に)	楽譜に指示された 強弱記号を見直 す	強弱を的確に解 釈する
	13	試験曲の構成・表現の修得④ (全体の構成を考え強弱を決定する)	流れの中で自然 に表現できるよう 練習する	技術と表現の両 立を図る
	14	試験曲の構成・表現法等の完成① (音色を中心に)	曲に合った音色で 練習する	声部間のバランス を見直す
	15	試験曲の構成・表現法等の完成② (音色の確立)	暗譜で安定した演 奏が出来るよう練 習する	学びの総まとめを する

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度



科目名	声楽 I	科目ナンバリング	NV1M4C09		
担当者	桑原 理恵 他				
担当形態	クラス分け	単位数	1単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	必修		選択必修	BE
備考	※教職課程必修(声楽コースを除く)※サウンドデザイン、ミュージックパフォーマンスコースは選択科目				

授業のテーマ及び到達目標	呼吸法や発声など声楽の基礎技術についての理解を深める。また、イタリア語の発音の仕方に慣れる。身体を解放して伸びやかな演奏ができる			
授業の概要	「歌う」ことの基礎となる呼吸、発声を練習曲、イタリア歌曲を通して学ぶ。またイタリア語の発音と古典の節度ある表現法を習得する。レッスンの曲に関しては担当教員の指導に従って決める。 * 試験曲はではイタリア歌曲集 I、IIより選曲する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	イタリア歌曲を鑑賞する
	2	各自課題曲1 (身体と声の関係)	課題曲を母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる
	3	各自課題曲1 (声の響き)	身体を解放することを意識して母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる
	4	各自課題曲1 (息の流れと身体の支え)	声の響きを意識して母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる
	5	各自課題曲1 (発声と発音)	息の流れを意識してイタリア語で歌う練習をする	レッスン内容をまとめる
	6	各自課題曲2 (母音の響き)	課題曲を母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる
	7	各自課題曲2 (イタリア語の発音とリズム)	正しい発音で歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる
	8	各自課題曲2 (イタリア語の響き)	響きのある母音で歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる

	9	各自課題曲2 (歌詞の意味と表現)	歌詞の意味を理解して歌う	レッスン内容をまとめる
	10	各自課題曲3 (母音の響きと呼吸法)	課題曲を母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる
	11	各自課題曲3 (イタリア語の発音と発声)	スムーズな息の流れで歌唱できるように練習する	レッスン内容をまとめる
	12	各自課題曲3 (言葉と旋律の関係)	息の流れが止まることなく歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる
	13	実技試験に向けたまとめ1 (呼吸・発声)	暗譜して歌唱できるように練習する	呼吸・発声を中心にレッスン内容を復習する
	14	実技試験に向けたまとめ2 (発音・母音の響き)	発声の課題に留意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッスン内容を復習する
	15	実技試験に向けたまとめ3 (表現法)	伴奏者と共に練習する	どのように表現すればよいかまとめる

使用教科書	イタリア歌曲集 I (全音楽譜出版社),
	イタリア古典声楽曲集 I (教育芸術社),
	* 高声・中声・低声、出版社は担当教員と相談の上購入すること
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	声楽Ⅱ	科目ナンバリング	NV1M4C10		
担当者	桑原 理恵他				
担当形態	クラス分け	単位数	1単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	必修		選択必修	BE
備考	※教職課程必修(声楽コースを除く)※サウンドデザイン、ミュージックパフォーマンスコースは選択科目				

授業のテーマ及び到達目標	呼吸法や発声など声楽の基礎技術についての知識を演奏の中で活かすことができる。また、イタリア語の発音の仕方に慣れ、母音の響きを大切に歌うことができる。			
授業の概要	声楽Ⅰにひきつづき「歌う」ことの基礎となる呼吸、発声を練習曲、イタリア歌曲を通して学ぶ。またイタリア語の発音と古典の節度ある表現法を習得する。レッスンの曲に関しては担当教員の指導に従って決める。 *試験曲ではイタリア歌曲集Ⅰ、Ⅱ巻掲載曲より選曲する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	授業内容、課題曲について確認する
	2	各自課題曲4(発音と呼吸法)	課題曲をイタリア語で練習する	レッスン内容をまとめる
	3	各自課題曲4(母音の響き)	母音の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる
	4	各自課題曲4(言葉と響き)	声の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる
	5	各自課題曲4(旋律の表現)	フレーズのまとまりを感じて歌う練習をする	レッスン内容をまとめる
	6	各自課題曲5 (イタリア語の発音と母音の響き)	母音の響きに気をつけてイタリア語で練習する	レッスン内容をまとめる
	7	各自課題曲5(イタリア語と旋律)	イタリア語を旋律に乗せて歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる
	8	各自課題曲5(旋律と呼吸)	フレーズと呼吸の関りを感じて歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる

	9	各自課題曲5(言葉と表現)	歌詞の意味を理解して歌う	レッスン内容をまとめる
	10	各自課題曲6(歌詞と発語)	発音に気をつけて課題曲を練習する	レッスン内容をまとめる
	11	各自課題曲6 (テンポ・強弱などの表現)	楽譜に書かれている表示記号を表現して歌う	レッスン内容をまとめる
	12	各自課題曲6(伴奏と旋律)	伴奏と歌との関りを理解して歌う	レッスン内容をまとめる
	13	実技試験に向けたまとめ1 (呼吸・発声)	暗譜して歌唱できるように練習する	呼吸・発声を中心にレッスン内容を復習する
	14	実技試験に向けたまとめ2 (発音・母音の響き)	発声の課題に留意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッスン内容を復習する
	15	実技試験に向けたまとめ3 (表現法)	伴奏者と共に練習する	どのように表現すればよいかまとめる

使用教科書	イタリア歌曲集 I (全音楽譜出版社),
	イタリア古典声楽曲集 I (教育芸術社),
	* 高声・中声・低声、出版社は担当教員と相談の上購入すること
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	合唱 I	科目ナンバリング	MC1M1C01/KC1M1T11		
担当者	菊村 隆史				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	両学科共通	開設学年	1年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	必修			ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる			
授業の概要	コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス 授業計画発表・学修内容の説明・パート編成分け	シラバスを確認	計画を立てる
	2	合唱(コーラス・アンサンブル)のための基本的な発声法の修得とその実習①呼気のコントロールと発声のメカニズムについて研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	3	合唱(コーラス・アンサンブル)のための基本的な発声法の修得とその実習②安定感のあるブレスに立脚した声について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	4	合唱(コーラス・アンサンブル)のための基本的な発声法の修得とその実習③様々なパッセージを歌唱し自らの声と音域について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	5	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習①移動ド唱法とソルミゼーションその1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	6	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習②移動ド唱法とソルミゼーションその2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	7	アンサンブル・テクニックの修得とその応用①単旋律聖歌、オルガヌム等を用いて完全4度または完全5度の響きを味わい音程感覚を養う	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	8	アンサンブル・テクニックの修得とその応用②カノン、オスティナート、2～3声の楽曲、様々なコーラス・アンサンブルを研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習

	9	楽曲演奏と研究① 課題楽曲Aの実習、アーティキュレーションについて研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	10	楽曲演奏と研究② 課題楽曲Aの実習、発語(ディクシオン)について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	11	楽曲演奏と研究③ 課題楽曲Bの実習、アーティキュレーションについて研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	12	楽曲演奏と研究④ 課題楽曲Bの実習、発語(ディクシオン)について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	13	まとめ グループ別研究発表と考察①	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	14	まとめ グループ別研究発表と考察②	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	15	前期の総括	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習

使用教科書	必要に応じて配付、または個人購入して使用する,詳細は授業時に指示する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題演奏	50%	演奏に学修課題を活かしている
	課題 / レポート	30%	合唱曲、アンサンブルについての考察
	平常点(態度・行動観察)	20%	授業態度、積極的な取り組み

科目名	合唱Ⅱ	科目ナンバリング	MC1M1C02/KC1M1T11		
担当者	菊村 隆史・桑原 理恵・村橋 和子				
担当形態	複数	単位数	2単位		
対象学科	両学科共通	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	必修			ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる			
授業の概要	コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス 作品演奏にふさわしい発声、発語に留意しながら和声的感覚を養うトレーニングに取り組む	シラバスを確認	計画を立てる
	2	楽曲演奏と実習① 組曲第1曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	3	楽曲演奏と実習② 組曲第2曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	4	楽曲演奏と実習③ 組曲第3曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	5	楽曲演奏と実習④ 組曲第4曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	6	楽曲演奏と実習⑤ 組曲第5曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	7	楽曲演奏と実習⑥ 組曲第6曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	8	楽曲演奏と実習⑦ 組曲第7曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習

	9	楽曲演奏と実習⑧ 組曲第8曲の演奏	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	10	楽曲演奏と実習⑨ 組曲第9曲の演奏	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	11	楽曲演奏と研究⑩ 全曲通し練習その1	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	12	楽曲演奏と研究⑪ 全曲通し練習その2	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	13	リハーサル	既習事項のまとめ と練習	課題に基づき復 習・反復練習
	14	演奏会	既習事項のまとめ と練習	課題に基づき復 習・反復練習
	15	総括と反省	既習事項のまとめ と練習	課題に基づき復 習・反復練習

使用教科書	必要に応じて配付、または個人購入して使用する,詳細は授業時に指示する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題演奏	50%	演奏に学修課題を活かしている
課題 / レポート	30%	合唱曲、アンサンブルについての考察	
平常点(態度・行動観察)	20%	授業態度、積極的な取り組み	



科目名	合奏 I	科目ナンバリング	MC1M4C09		
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	必修		選択必修	ABCDEF
備考	※音楽療法士1種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種においては「14単位以上」の中の一つとな				

授業のテーマ及び到達目標	指揮者がいる場合は指揮者、いない場合はコンサートマスター等を通じてコミュニケーションやチームワークを大事にしながら、より深い音楽を目指す。更に演奏会を企画・運営をする場合もあり、出演するすることと同時に裏方の経験もしながら学び、将来的に指導者としての活動やプロデュースする力も付けていくことができるようになる			
授業の概要	アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内容を主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容についての指示を出すものとする			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション(授業計画等)	シラバスを確認	次の授業に備える
	2	基礎合奏 他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	3	合奏における注意点 他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	4	吹奏楽コンクール課題曲Ⅰ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅠ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	5	吹奏楽コンクール課題曲Ⅱ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅡ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	6	吹奏楽コンクール課題曲Ⅲ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅢ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	7	吹奏楽コンクール課題曲Ⅳ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅣ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	8	吹奏楽コンクール課題曲Ⅴ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅤ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習

	9	定期演奏会プログラム① (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	10	定期演奏会プログラム② (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	11	定期演奏会プログラム③ (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	12	定期演奏会プログラム④ (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	13	総リハーサル (本番を想定し、緊張感をもって臨む)	プログラム全曲に ついて、注意すべ き点をチェックする	注意や指摘され たところの反復練 習
	14	定期演奏会 (これまでの内容を演奏会に活かす)	本番に備えての準 備他	本番を終えての 反省点をまとめる
	15	総括と反省会	反省点をまとめて 準備しておく	前期で学んだこと の確認と後期へ の展望を考える

使用教科書	各担当者により指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度と積極的姿勢
課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす	

科目名	合奏Ⅱ	科目ナンバリング	MC1M4C10		
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	必修		選択必修	ABCDEF
備考	※音楽療法士1種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種においては「14単位以上」の中の一つとな				

授業のテーマ及び到達目標	前期の経験により得たことを活かし、吹奏楽の更なる研究、演奏者・指導者としての両方の視点で授業に参加し、より深く学んでいくこと、将来的に指導者を目指すものに対して適応力および対応力をも養うことができる			
授業の概要	アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内容を主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容についての指示を出すものとする			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	前期の復習(前期に学んだことの復習および確認)	前期で学んだことを今一度復習しておく	次の授業に備える
	2	基本的奏法の修得とその応用① (教材となる曲の発表とその音出し)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	3	基本的奏法の修得とその応用② (教材曲の演奏と分析)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	4	基本的奏法の修得とその応用③ (リズム・音程のトレーニング)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	5	基本的奏法の修得とその応用④ (リズム・音程のトレーニングを基に発想を自由に転換)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	6	基本的奏法の修得とその応用⑤ (独奏では経験できない音楽体験をする)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	7	基本的奏法の修得とその応用⑥ (アンサンブルを通して曲の表現方法を学ぶ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	8	基本的奏法の修得とその応用⑦ (合奏というジャンルを幅広く理解する)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習

	9	基本的奏法の修得とその応用⑧ (各楽器・パートそれぞれの役割について)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	10	基本的奏法の修得とその応用⑨ (様々な楽器の特色と奏法)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	11	基本的奏法の修得とその応用⑩ (音楽的表現における音色の研究)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	12	基本的奏法の修得とその応用⑪ (更なる表現方法の研究)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	13	まとめ① (教材楽曲を通しての確認と応用①)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	14	まとめ② (教材楽曲を通しての確認と応用②)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	15	まとめ③ (教材楽曲の発表会[ミニコンサート])	発表会への準備 等	授業の総括と反 省

使用教科書	各担当者により指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度と積極的姿勢
課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす	

科目名	演奏実技 I	科目ナンバリング	NC1M3T15		
担当者	実技系教員(主に管弦打)				
担当形態	クラス分け	単位数	1単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDE
備考	※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可				

授業のテーマ及び到達目標	専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる			
授業の概要	原則として、以前経験したことのある楽器について、専門(例えば管弦打楽器)に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約(約30分)以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス(年間計画等)	事前に練習をしておく	次のレッスンへの準備
	2	楽器の歴史	事前に調べておく	学修内容の復習
	3	楽器の特徴と構造	事前に調べておく	学修内容の復習
	4	呼吸法	事前に調べておく	学修内容の復習
	5	基礎練習① (ロングトーン)	事前練習	学修内容の復習
	6	基礎練習② (フィンガリング・リップスラー)	事前練習	学修内容の復習
	7	基礎練習③ (スケール[♭系長調])	事前練習	学修内容の復習
	8	基礎練習④ (スケール[♯系長調])	事前練習	学修内容の復習

	9	基礎練習⑤ (スケール[♭系短調])	事前練習	学修内容の復習
	10	基礎練習⑥ (スケール[♯系短調])	事前練習	学修内容の復習
	11	簡単なソロ曲の選定	希望する曲を探しておく	学修内容の復習
	12	ソロ曲(粗通し)	事前練習	学修内容の復習
	13	ソロ曲 (テンポとアーティキュレーションの確認)	事前練習	学修内容の復習
	14	ソロ曲 (音楽的表現を伴った伴奏合わせ)	事前練習	学修内容の復習
	15	総まとめ (人前での披露演奏)	事前練習	前期の反省 他

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢
演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かしているか	

科目名	演奏実技Ⅱ	科目ナンバリング	NC1M3T16		
担当者	実技系教員(主に管弦打)				
担当形態	クラス分け	単位数	1単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDE
備考	※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可				

授業のテーマ及び到達目標	専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる			
授業の概要	原則として、以前経験したことのある楽器について、専門(例えば管弦打楽器)に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約(約30分)以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	前期の反省および確認	事前に練習をしておく	次のレッスンへの準備
	2	エチュードの選定(内容の説明 他)	事前に準備しておく	学修内容の復習
	3	エチュードA-1	事前に調べておく	学修内容の復習
	4	エチュードA-2	事前に調べておく	学修内容の復習
	5	エチュードA-3	事前練習	学修内容の復習
	6	エチュードA-4	事前練習	学修内容の復習
	7	エチュードA-5	事前練習	学修内容の復習
	8	エチュードA-6	事前練習	学修内容の復習

	9	ソロ曲の選定	事前練習	学修内容の復習
	10	ソロ曲A-1	事前練習	学修内容の復習
	11	ソロ曲A-2	希望する曲を探しておく	学修内容の復習
	12	ソロ曲A-3 (粗通し)	事前練習	学修内容の復習
	13	ソロ曲A-4 (テンポとアーティキュレーションの確認)	事前練習	学修内容の復習
	14	ソロ曲A-5 (音楽的表現を伴った伴奏合わせ)	事前練習	学修内容の復習
	15	総まとめ (人前での披露演奏)	事前練習	後期の反省 他

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢
演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かしているか	



科目名	リトミック I	科目ナンバリング	MC1M3N17/KC1M1N19		
担当者	隈部 文				
担当形態	単独	単位数	1単位		
対象学科	両学科共通	開設学年	1年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDEF
備考	※未来創造学科こども文化コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	リトミックを体験することにより、「集中力」「直感力」「記憶力」「創造力」「想像力」など高まり、音や音楽を深く感じられるようになる。リズムの持つエネルギーの違いが表現できる			
授業の概要	感覚を通じた反応活動を伴いながら音楽の持つ様々な要素を身体全体で感じていく。常に動きながら音楽を体験し、心と身体の調和を促したり、音楽的センスを培っていく			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 基本的な動きと即時反応	シラバスに目を通しておく	エミール＝ジャック、ダルクローズについて調べる
	2	ビート(拍)	配布資料を読み、様々なジャンルの音楽を聴いておく	様々な音楽を聴きながらビートを叩く
	3	ダイナミクスとテンポ	配布資料を読んでおく	いろいろな速さの音楽を聴きながらビートを叩く
	4	拍子	配布資料を読んでおく	様々な曲を歌いながら拍子をクラブやステップする
	5	アナクルーシス	拍子の復習をしておく	身近な曲からアナクルーシスを探す
	6	基礎リズム	基本的なリズムをクラブしておく	授業を振り返り、基礎リズムの体験方法を考えてみる
	7	リズムパターン(リズム型)	物の名前を言いながらクラブしておく	授業で学んだリズムパターンをステップしておく
	8	リズムフレーズ(声とクラブ)	短文を言いながらクラブしておく	リズムフレーズをリズム唱で唱えたりクラブする

	9	リズムフレーズ(クラブとステップ)	課題のリズムフレーズをクラブしておく	自分でリズムフレーズを作りクラブやステップをする
	10	ポリリズム	課題のリズムをクラブ、ステップしておく	自分で考えたポリリズムをクラブやステップする
	11	曲の形式	提示された曲を聴いておく	いろいろな曲の形式を調べる
	12	ニュアンス	配布資料を読んでおく	自分の好きな曲をいろいろなニュアンスで歌ってみる
	13	補足リズム	基礎リズムやリズムパターンをクラブしておく	いろいろな曲を歌いながら補足リズムをクラブする
	14	連鎖リズムとカノン	課題のリズムをクラブ、ステップしておく	授業で取り上げた課題を確実にできるようにしておく
	15	まとめ	実技試験の準備	実技試験の振り返り

使用教科書	適宜プリントを配布する
参考書・参考資料等	ダルクローズ・アプローチによる子どものための音楽授業(ふくろう出版)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	40%	授業への積極的な取り組み、受講態度
定期試験(実技試験)	60%	リズムの正確さ	

科目名	リトミックⅡ	科目ナンバリング	MC1M3N18/KC1M1N20		
担当者	隈部 文				
担当形態	単独	単位数	1単位		
対象学科	両学科共通	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDEF
備考	※未来創造学科こども文化コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	保育や幼児教育、学校教育などさまざまな現場で生かせるリトミック指導ができるようになる。動きのためのピアノが弾けるようになる			
授業の概要	リトミックⅠで経験したことを基盤として発展させ、保育や幼児教育、また学校教育の現場で生かせるリトミック指導法や、音楽と動きを関連付けた音楽教育としてのリトミックを習得する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	動きのための音楽① テキスト①	夏休みの課題曲を弾いておく	授業内容の復習
	2	動きのための音楽② テキスト②	課題曲を弾いておく	授業内容の復習
	3	いろいろな表現①(ボディー・パーカッション) テキスト③	課題のリズムを叩いてくる	授業内容の復習
	4	いろいろな表現②(身体表現を伴った言葉のアンサンブル) テキスト④	課題のリズムを叩いてくる	授業内容の復習
	5	いろいろな表現③(絵本に動きをつける) テキスト⑤	グループで絵本を考え、内容を把握しておく	授業内容の復習
	6	速さの違いを感じての動き テキスト⑥	課題曲を聴いておく	授業内容の復習
	7	楽器の音色の違いを楽しみながらの動き テキスト⑦	課題曲を聴いておく	授業内容の復習
	8	3拍子を感じて「メヌエット」を味わう テキスト⑧	課題曲を聴いておく	授業内容の復習

	9	指導案作成	資料に目を通して おく	授業内容の復習
	10	ロールプレイ①	ロールプレイの準備 をする	授業内容の復習
	11	ロールプレイ②	ロールプレイの準備 をする	授業内容の復習
	12	音楽の視覚化①(曲の分析)	課題曲を聴いておく	授業内容の復習
	13	音楽の視覚化②(曲を動く)	曲の要素に合う動きを 考えておく	授業内容の復習
	14	音楽の視覚化③(仮発表と検討)	自分の動きやグループ 全体の動きを復習しておく	授業内容の復習
	15	まとめ	実技試験の準備	授業全体と実技試験の 振り返り

使用教科書	1～5歳児がよるこぶ、保育ではじめてリトミック(チャイルド本社),
	適宜プリントを配布する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	40%	授業への積極的な取り組み、受講態度
定期試験(実技試験)	60%	リズムの正確さ	

科目名	音楽理論 I	科目ナンバリング	MC1M1T56B		
担当者	西林 博子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	必修		選択必修	ABC
備考					

授業のテーマ及び到達目標	基礎からしっかりと理解し、これから専門的に学んでいく「音楽」の礎を築き、実践的に活かせるようにすること			
授業の概要	基礎からの学修を基本とし、習熟度テストを導入し、理解力を確かめ、確実な基礎力を身に付ける。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション (これから学ぶにあたっての心構え 他)	シラバスで内容を 確認	確認と復習
	2	音楽の三要素・譜表 (rhythm.melody.harmony・五線と加線他)	事前に学修内容 の部分を使用教 科書で予習	授業後に課題プリ ントを行い提出す る
	3	音名・音高標示・変化記号 (ドイツ音名・日本音名・変化記号の効力等)	音名・音高標示・ 変化記号について 調べておく	授業後に課題プリ ントを行い提出す る
	4	音符と休符 (単純音符・付点音符・複付点音符・その記譜法等)	音符と休符につい て調べておく	授業後に課題プリ ントを行い提出す る
	5	音程① (幹音どおしの音程)	音程について調べ ておく	授業後に課題プリ ントを行い提出す る
	6	音程② (旋律音程と和声音程・度数・単音程と複音程・名称)	音程について調べ ておく	授業後に課題プリ ントを行い提出す る
	7	音階① 音階の成り立ち	音階について調べ ておく	授業後に課題プリ ントを行い提出す る
	8	音階② 音階と調、調号	調号について調べ る	授業後に課題プリ ントを行い提出す る

	9	音階③五度圏	五度圏について調べる	授業後に課題プリントを行い提出する
	10	音階④近親調	近親調について調べる	授業後に課題プリントを行い提出する
	11	演奏記号と用語① (速度記号・速度用語、Dynamikを示す記号と用語および曲想を示す用語)	各用語について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
	12	演奏記号と用語② (Dynamik、Agogik、articulationを示す記号と用語および曲想を示す用語)	各用語について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
	13	まとめ①(音名、音程、音階)	音程について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
	14	まとめ②(音名、音程、音階)	教科書の練習問題を解く	授業後に課題プリントを行い提出する
	15	まとめ(総まとめ)	今までの範囲とプリントを確認	授業後に復習

使用教科書	楽典(理論と実習)(音楽之友社)
	プリント
参考書・参考資料等	楽典(音楽家を志す人のための)(音楽之友社)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	10%	主に授業態度、積極的な姿勢等
課題提出	30%	事前学習後の定着度	
期末試験	60%	筆記試験の点数	

科目名	音楽理論Ⅱ	科目ナンバリング	MC1M1T57B		
担当者	西林 博子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	選択必修		選択必修	ABC
備考					

授業のテーマ及び到達目標	基礎からしっかりと理解し、これから専門的に学んでいく「音楽」の礎を築き、実践的に活かせるようにすること			
授業の概要	音楽理論Ⅰの内容を、更に発展させ、理論にとどまらず、主科の演奏、移調、ソルフェージュなど実際の演習に役立つように学びを深めていく。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	音楽理論Ⅰの復習	音名、音程、音階、楽語を復習しておく	授業後に課題プリントを行い提出する
	2	和音① (和音の種類)	和音の種類について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
	3	和音② (音階上の和音と転回、コードネームについて)	音階上の和音を弾いて確認しておく	授業後に課題プリントを行い提出する
	4	移調①	移調について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
	5	移調② (移調楽器)	移調楽器について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
	6	調の判定① (旋律の調性判断の方法)	調の判定についてテキストで調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
	7	調の判定② (調の判定と移調について)	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後に課題プリントを行い提出する
	8	調の判定③ (調性判断、移調の練習問題)	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後に課題プリントを行い提出する

	9	調の判定④ (転調を含む調性判断、移調の練習問題)	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後に課題プリントを行い提出する
	10	小節と拍子とrhythm (強起・弱起・拍子の種類・syncopation他)	小節と拍子とrhythmについて調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
	11	音型と反復とその略記法、演奏順について (メロディー的音型・ハーモニー的音程の反復と略記法等)	音型と反復とその略記法について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
	12	様々な音階 (教会旋法、全音階、半音階および民族的音階)	音階の種類について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する
	13	総復習 (前期および後期で学修したことの復習)	これまでの学修をまとめる	授業後に課題プリントを行い提出する
	14	総復習 (前期および後期で学修したことの復習)	これまでの学修をまとめる	授業後に課題プリントを行い提出する
	15	まとめ(総まとめ)	これまでの学修をまとめる	音楽理論I、IIのまとめ

使用教科書	楽典(理論と実習)(音楽之友社),
	プリント
参考書・参考資料等	楽典(音楽家を志す人のための)(音楽之友社)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	10%	主に授業態度、積極的な姿勢等
課題提出	20%	事前学習後の定着度	
期末試験	70%	筆記試験の点数	



科目名	音楽史 I (日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)	科目ナンバリング	MC1M3C58		
担当者	木村 博子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択	必修			ABCE
備考					

授業のテーマ及び到達目標	音楽の歴史をグローバルな観点から捉えることにより、幅広い教養を身につけることができる			
授業の概要	西洋音楽史、日本音楽史、諸民族の音楽について取り上げる。西洋音楽史については、時代や文化についての理解も深めながら、バロック時代までの音楽的特徴を理解していく。日本音楽史については、安土・桃山時代までの特徴、代表的なジャンルについて理解する。さらに諸民族の音楽については全体を俯瞰した後、アジアの音楽について理解する。以上を視聴覚映像を多用しつつ、学生とのディスカッションを交えて進行させていく			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス:なぜ音楽史を学ぶか～人間と音楽	自分と音楽の関係を振り返る	教科書の第1部序章をまとめる
	2	西洋音楽史(古代ギリシア) 古代ギリシアにおける音楽の考え方を通して、西洋音楽に通底する特質について考える	教科書の第1部第1章を読む	ギリシア人にとって音楽とは何だったのかまとめる
	3	西洋音楽史(中世) キリスト教と音楽の関係、ポリフォニーの発展について理解する	グレゴリオ聖歌とオルガヌムを聴く	教科書の第1部第2章をまとめる
	4	西洋音楽史(ルネサンス) フランドル楽派の音楽とイタリア・ルネサンス音楽について理解する	イタリア・ルネサンス文化について調べる	教科書の第1部第3章と第4章をまとめる
	5	西洋音楽史(バロック①) オペラの創始と発展を理解する	モンテヴェルディの『オルフェオ』を視聴する	教科書の第1部第5章をまとめる
	6	西洋音楽史(バロック②) バロックの器楽の発展について学ぶ	バロックの楽器の種類について調べる	教科書の第6章前半(pp.61～65)をまとめる
	7	西洋音楽史(バロック③) バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディの音楽について学ぶ	教科書の第6章後半(pp.65～68)を読む	バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディの作風をまとめる
	8	日本音楽史(導入:日本文化と音楽) 日本文化の諸相を検討し、それと音楽との関係を考える	「日本」とは何か考える	日本固有の音の感性についてまとめる

	9	日本音楽史(古代～平安時代) 古代から平安時代までの音楽の種類と歴史を理解する	古代から平安時代までの文化を調べる	教科書第2部第1章をまとめる
	10	日本音楽史(戦国・安土桃山時代) 能楽について学ぶ	能『道成寺』を視聴する	教科書第2部第2章をまとめる
	11	諸民族の音楽(概要) 世界の民族音楽を大陸別に概説する	世界の地域と気候を予習する	世界の音楽の概要をまとめる
	12	諸民族の音楽(アジアの音楽①) 東アジアと東南アジアの音楽について学ぶ	東アジア、東南アジアの文化について調べる	同地域の音楽を視聴する
	13	諸民族の音楽(アジアの音楽②) 中央アジアと西アジアの音楽について学ぶ	アラビア半島の歴史について調べる	同地域の音楽を視聴する
	14	まとめ①(西洋音楽と諸民族の音楽との関係) 18世紀までの西洋音楽と非西洋音楽との関係について考える	西洋音楽と諸民族の音楽の違いについて考える	西洋音楽における民族音楽の影響をまとめる
	15	まとめ② 1～14回の授業の総括	これまでの授業内容の復習をする	これまでの内容をレポートにまとめる

使用教科書	決定版 はじめての音楽史～古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで(音楽之友社)
参考書・参考資料等	はじめての世界音楽～諸民族の伝統音楽からポップスまで(音楽之友社),
	音楽史を学ぶ～古代ギリシヤから現代まで(教育芸術社),
	日本音楽との出会いー日本音楽の歴史と理論(東京堂出版),

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(授業への取組)	30%	積極的な発言や質問、意欲
課題・レポート	70%	内容の理解、自分の考えや感じ方の表現方法	

科目名	音楽史Ⅱ(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)	科目ナンバリング	MC1M3C59		
担当者	木村 博子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択	必修			ABCE
備考					

授業のテーマ及び到達目標	音楽の歴史をグローバルな観点から捉えることにより、幅広い教養を身につけることができる			
授業の概要	この科目は、前期の「音楽史Ⅰ」の続編として、西洋音楽史、日本音楽史、諸民族の音楽について取り上げるものである。西洋音楽史については、時代や文化についての理解も深めながら、古典派から20世紀までの音楽的特徴を理解していく。日本音楽史については、江戸時代から20世紀までの特徴、代表的なジャンルについて理解する。さらに諸民族の音楽については、アフリカおよび南北アメリカの音楽について理解する。以上を視聴覚映像を多用しつつ、学生とのディスカッションを交えて進行させていく			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	西洋音楽史(導入:近代市民社会と音楽) 前古典派の活動と古典派の特質を理解する	前期の復習をする	教科書の第1部 第7章をまとめる
	2	西洋音楽史(古典派①) ハイドン、モーツァルトの生涯と音楽について学ぶ	教科書の第1部第 8章を読む	ハイドンとモーツァルトについてまとめる
	3	西洋音楽史(古典派②) ベートーヴェンの生涯と音楽について学ぶ	ベートーヴェンの交響曲第3、5、9番を聴く	教科書の第1部第8章をまとめる
	4	西洋音楽史(ロマン主義前期) 19世紀の時代背景とロマン主義の音楽の特質、シューベルト、メンデルスゾーンの音楽について学ぶ	シューベルトとメンデルスゾーンの曲を聴く	教科書の第1部第9章(ショパンを除く)をまとめる
	5	西洋音楽史(ロマン主義の諸相①) 19世紀のピアノ音楽について学ぶ	ショパンとリストの曲を聴く	ショパンとリストについてまとめる
	6	西洋音楽史(ロマン主義の諸相②) 後期ロマン主義の音楽について学ぶ	ヴァグナーの楽劇論について調べる	教科書の第1部第10章をまとめる
	7	西洋音楽史(20世紀の音楽①) 調性の崩壊と20世紀音楽について理解する	19世紀末～20世紀前半の時代背景を調べる	教科書の第1部第11章をまとめる
	8	西洋音楽史(20世紀の音楽②) 第2次世界大戦後の音楽について学ぶ	トータル・セリーと偶然性の音楽について調べる	教科書の第1部第12章をまとめる

	9	日本音楽史(江戸時代) 歌舞伎と文楽について学ぶ	歌舞伎『勧進帳』、 文楽『平家女護 島』を視聴する	教科書第2部第3 章をまとめる
	10	日本音楽史(近代) 明治以降の音楽について学ぶ	明治以降の日本 史を調べる	教科書第2部第4 章をまとめる
	11	日本音楽史(現代) 第2次大戦以降の音楽について学ぶ	武満徹の音楽を 聴く	教科書第3部第1 章、第2章をまと める
	12	諸民族の音楽(アフリカの音楽) アフリカの音楽とジャズについて学ぶ	アフリカの歴史に ついて調べる	ジャズの歴史をま とめる
	13	諸民族の音楽(南アメリカの音楽) 南アメリカの音楽について学ぶ	南アメリカの歴史 について調べる	同地域の音楽を 視聴する
	14	まとめ①(西洋音楽と諸民族の音楽との関係) 20世紀までの西洋音楽と非西洋音楽との関係について考える	西洋音楽と諸民族 の音楽の違いに ついて考える	現代の音楽にお ける民族音楽の 影響について考 える
	15	まとめ② 1～14回の授業の総括	これまでの授業内 容の復習をする	これまでの内容を レポートにまとめ る

使用教科書	決定版 はじめての音楽史～古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで(音楽之友社)
参考書・参考資料等	はじめての世界音楽～諸民族の伝統音楽からポップスまで(音楽之友社),
	音楽史を学ぶ～古代ギリシヤから現代まで(教育芸術社),
	日本音楽との出会いー日本音楽の歴史と理論(東京堂出版),

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(授業への取組)	30%	積極的な発言や質問、意欲
課題・レポート	70%	内容の理解、自分の考えや感じ方の表現方法	

科目名	ソルフェージュ I A		科目ナンバリング	MC1M1C19A	
担当者	隈部 文				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科		開設学年	1年次	
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	選択必修		選択必修	BD
備考					

授業のテーマ及び到達目標	音楽の3要素を豊かに感じ、楽譜から読み取れる情報を正確に読み取り音楽的に演奏できる力をつける。聴音、視唱、リズム、読譜を中心に、音楽の基礎的なソルフェージュ能力を高め、より豊かで音楽的な表現力を持つ演奏家、音楽指導者への基礎を身に付ける。			
授業の概要	音楽の基礎的なソルフェージュ能力を育成するために聴音(単旋律・複旋律・和音・リズム)、視唱(単旋律・二声)、リズム(単純拍子・複合拍子)、読譜(高音部譜表・低音部譜表・大譜表・アルト譜表)を中心に様々な形態で学修する。身体を通して音楽を感じ取り、身体を動かしながら課題に取り組んでいく。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	学修内容の説明と導入	シラバスを確認する	課題の復習
	2	・単旋律聴音(記憶)・リズム・視唱(ハ長調) ・読譜(高音部譜表①)	ハ長調の音階を確認し歌っておく	課題の復習
	3	・単旋律聴音(筆記)・リズム・視唱(ヘ長調) ・読譜(高音部譜表②)	ヘ長調の音階を確認し歌っておく	課題の復習
	4	・複旋律聴音・リズム・視唱(ト長調) ・読譜(低音部譜表①)	ト長調の音階を確認し歌っておく	課題の復習
	5	・和声聴音・リズム・視唱(ニ長調) ・読譜(低音部譜表②)	ニ長調の音階を確認し歌っておく	課題の復習
	6	・リズム聴音・リズム・視唱(変ロ長調) ・読譜(低音部譜表③)	変ロ長調の音階を確認し歌っておく	課題の復習
	7	1～6までの確認(確認テスト)	これまでの課題の復習	確認テストの復習
	8	・音源を用いた名曲の聴音① ・リズム・視唱(イ長調)・読譜(大譜表①)	イ長調の音階を確認し歌っておく	課題の復習

	9	・音源を用いた名曲の聴音② ・リズム・視唱(変ホ長調)・読譜(大譜表②)	変ホ長調の音階を確認し歌っておく	課題の復習
	10	・音源を用いた名曲の聴音③・リズム ・視唱(ホ長調)・読譜(アルト譜表①)	ホ長調の音階を確認し歌っておく	課題の復習
	11	・聴音・リズム・視唱(変イ長調) ・読譜(アルト譜表②)	変イ長調の音階を確認し歌っておく	課題の復習
	12	・聴音・リズム・視唱(重唱①) ・読譜(アルト譜表③)	これまでの課題の復習	課題の復習
	13	・聴音・リズム・視唱(重唱②) ・読譜	これまでの課題の復習	課題の復習
	14	総合演習	これまでの課題の復習	課題の復習
	15	まとめ	試験課題への取り組み	筆記試験、実技試験課題の復習

使用教科書	新・ソルフェージュ(教育芸術社),
	適宜プリントを配布する
参考書・参考資料等	必要に応じて紹介していく

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	60%	実技(リズム打ち・視唱)、筆記(聴音)
平常点	40%	積極的な取り組み、発表、課題提出	

科目名	ソルフェージュ I B		科目ナンバリング	MC1M1C19B	
担当者	西林 博子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	両学科共通		開設学年	1年次	
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	必修		選択必修	AB
備考	※音楽学科は卒業必修科目。未来創造学科は声優コースのみ選択可。				

授業のテーマ及び到達目標	音楽の3要素(リズム・メロディー・ハーモニー)を豊かに感じ、聴く、読む、表現する、創る力を習得し、音楽基礎力を高めることを目標とする。			
授業の概要	音楽の基礎的なソルフェージュ能力・記譜能力を育成するために、聴音(単旋律、リズム)、視唱(単旋律)、リズム(単純拍子、複合拍子)をさまざまな形態で経験する。音楽理論の学修内容をより音楽的に理解できるようにする。コードネーム、カデンツを学修し、ハーモニーとメロディーの関係を感じ、表現できる基礎を身につける。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション/学修内容の説明。課題の目標と取り組み方について。テキスト・配布資料の確認	シラバスの熟読	課題の復習
	2	視唱(単旋律①)/リズム(1声・単純拍子①)/聴唱/記譜について	P8、P24、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)
	3	視唱(単旋律②)/リズム(1声・単純拍子②)/聴音/音階(長調)	P8、P24、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)
	4	視唱(単旋律③)/リズム(1声・単純拍子③)/聴音/コードネーム	P8、P25、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)
	5	視唱(Cdur①)/リズム(1声・単純拍子④)/聴音/主要3和音	P8、P26、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)
	6	視唱(Cdur②)/リズム(1声・複合拍子①)/聴音/カデンツ(I-V-I)C:	P9、P27、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング
	7	視唱(Cdur③)/リズム(1声・複合拍子②)/聴唱/カデンツ(I-V-I)F:	P9、P28、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング
	8	視唱(Fdur①)/リズム(1声・複合拍子③)/聴音/カデンツ(I-V-I)G:	P9、P31、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング

	9	視唱(Fdur②)／(1声・複合拍子④)／聴音／カデンツ(I-V-I)D:	P9、P32、プリント 課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング
	10	視唱(Fdur③)／リズム(2声①)／聴音／カデンツ(I-IV-V-I)・弾き歌い(長調)①	P14、P33、プリント 課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング
	11	視唱(Gdur①)／リズム(2声②)／聴音／カデンツ(I-IV-V-I)・弾き歌い(長調)②	P14、P36、プリント 課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング
	12	視唱(Gdur②)／リズム(2声③)／聴音／カデンツ(I-IV-V-I)・弾き歌い(長調)③	P14、P37、プリント 課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング
	13	視唱(Gdur③)／リズム(2声④)／聴音／カデンツ(I-IV-V-I)・弾き歌い(長調)④	P14、P38、プリント 課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング
	14	視唱(長調のまとめ)／リズム(様々なリズム・アンサンブル)／聴音／カデンツ(I-IV-V-I)・弾き歌い(長調)⑤	課題のトレーニング	実技試験課題への取り組み
	15	ソルフェージュ I のまとめ	課題のトレーニング	資料のまとめ・筆記試験実技試験課題の復習

使用教科書	新・ソルフェージュ(教育芸術社),
	コールユーブンゲン(大阪開成館(三木楽器))
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する。

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
		定期試験	60%
	平常点	40%	積極的な取り組み、課題提出



科目名	ソルフェージュⅡA		科目ナンバリング	MC1M1G20A	
担当者	隈部 文				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科		開設学年	1年次	
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	選択必修		選択必修	BCD
備考					

授業のテーマ及び到達目標	音楽の3要素を豊かに感じ、楽譜から読み取れる情報を正確に読み取り音楽的に演奏できる力をつける。聴音、視唱、リズム、読譜を中心に、音楽の基礎的なソルフェージュ能力を高め、より豊かで音楽的な表現力を持つ演奏家、音楽指導者への基礎を身に付ける。前期より更に幅広い内容と難しい課題に取り組む。				
授業の概要	音楽の基礎的なソルフェージュ能力を育成するために聴音(単旋律・複旋律・和音・リズム)、視唱(単旋律・多声)、リズム(単純拍子・複合拍子)、読譜(大譜表・アルト譜表)を中心に様々な形態で学修する。基礎訓練に加えフォルマシオン・ミュージカルにも取り組み、ソルフェージュを多角的に学んでいく。クラスの状況に応じて内容を変更することもある。				
授業計画	回	学習内容		事前学習	事後学習
	1	・学修内容の説明 ・ソルフェージュⅠの復習		シラバスを確認しておく	課題の復習
	2	・聴音・初見視奏・移調奏 ・視唱(様々な調、イ短調) ・移動ド唱法(ヘ長調)		イ短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
	3	・聴音・初見視奏・移調奏 ・視唱(様々な調、二短調) ・移動ド唱法		聴音・視唱課題作成 二短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
	4	・聴音・初見視奏・移調奏 ・視唱(様々な調、ホ短調) ・移動ド唱法		ホ短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
	5	・聴音・初見視奏・移調奏 ・視唱(様々な調、ロ短調) ・移動ド唱法		ロ短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
	6	・聴音・初見視奏・移調奏 ・視唱(様々な調、ト短調) ・移動ド唱法		ト短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
	7	1～6までの確認(確認テスト)		これまでの復習をしておく	確認テストの復習
8	・様々な楽器による聴音① ・視唱 ・移動ド唱法(ト長調) ・フォルマシオン ミュージカル		聴音を担当する楽器について調べておく	課題の復習	

	9	・様々な楽器による聴音②・視唱 ・移動ド唱法 ・フォルマシオン ミュジカル	聴音を担当する楽器について調べておく	課題の復習
	10	・様々な楽器による聴音③・視唱 ・移動ド唱法 ・フォルマシオン ミュジカル	聴音を担当する楽器について調べておく	課題の復習
	11	・聴音・視唱・移動ド唱法 ・フォルマシオン ミュジカルを考える	課題曲の学習内容について考えてくる	課題の復習
	12	・聴音・リズム アンサンブル ・視唱(重唱①)・移動ド唱法	これまでの課題の復習をしておく	課題の復習
	13	・聴音・リズム アンサンブル ・視唱(重唱②)・移動ド唱法	これまでの課題の復習をしておく	課題の復習
	14	総合演習	試験課題の確認	課題の復習
	15	まとめ	試験課題への取り組み	実技試験、筆記試験課題の復習

使用教科書	新・ソルフェージュ(教育芸術社),
	適宜プリントを配布する
参考書・参考資料等	必要に応じて紹介していく

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	60%	実技(リズム打ち、視唱、他)筆記(聴音)
平常点	40%	積極的な取り組み、発表、課題提出	

科目名	ソルフェージュⅡB		科目ナンバリング	MC1M1C20B	
担当者	西林 博子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	両学科共通		開設学年	1年次	
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	必修		選択必修	AB
備考	※音楽学科は卒業必修科目。未来創造学科は声優コースのみ選択可。				

授業のテーマ及び到達目標	音楽の3要素(リズム・メロディー・ハーモニー)を豊かに感じ、聴く、読む、表現する、創る力を習得し、音楽基礎力を高めることを目標とする。			
授業の概要	音楽の基礎的なソルフェージュ能力・記譜能力を育成するために、聴音(単旋律、リズム)、視唱(単旋律)、リズム(単純拍子、複合拍子)をさまざまな形態で経験する。音楽理論の学修内容をより音楽的に理解できるようにする。コードネーム、カデンツを学修し、ハーモニーとメロディーの関係を感じ、表現できる基礎を身につける。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ソルフェージュⅠの内容理解の確認	ソルフェージュⅠの復習	課題の復習
	2	視唱(amoll①)／リズム(1声)／聴音／短調の音階	P10、P29、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)
	3	視唱(amoll②)／リズム(1声・混合拍子①)／聴音／カデンツ(a: I-V-I)	P11、P30、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング
	4	視唱(dmoll①)／リズム(1声・混合拍子②)／聴音／カデンツ(d: I-V-I)	P11、P34、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング
	5	視唱(dmoll②)／リズム(2声①)／聴音／カデンツ(d: I-V-I)	P14、P35、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング
	6	視唱(emoll①)／リズム(2声②)／聴音／カデンツ(e: I-V-I)	P15、P39、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング
	7	視唱(emoll②)／リズム(アンサンブル①)／聴音／カデンツ(e: I-V-I)	P18、P40、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング
	8	視唱(Bdur)／リズム(アンサンブル②)／聴音／カデンツ(I-IV-V-I)・弾き歌い(短調)①	P19、P42、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング

	9	視唱(gmoll)／リズム(アンサンブル③)／聴音／カデンツ( I-IV-V-I)・弾き歌い(短調)②	P20、P44、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング
	10	視唱(Ddur)／リズム(歌唱と拍手①)／聴音／カデンツ( I-IV-V-I)・弾き歌い(短調)③	P46、P80、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング
	11	視唱(hmoll)／リズム(歌唱と拍手②)／聴音／カデンツ( I-IV-V-I)・弾き歌い(短調)④	P48、P80、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング
	12	視唱(Esdur,cmoll)／リズム(歌唱と拍手③)／聴音／弾き歌い( I-IV-V-I)長調・短調	P50,52、P80、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング
	13	視唱(まとめ)／リズム(歌唱と拍手④)／聴音／弾き歌い( I-IV-V-I)長調・短調	P81、プリント課題の練習	復習と課題の提出(teams)カデンツトレーニング
	14	視唱(まとめ)／リズム(まとめ)／聴音／弾き歌い( I-IV-V-I)長調・短調	課題のトレーニング	実技試験課題への取り組み
	15	ソルフェージュⅡのまとめ	課題のトレーニング	資料のまとめ・筆記試験実技試験課題の復習

使用教科書	新・ソルフェージュ(教育芸術社),
	コールユーブンゲン(大阪開成館(三木楽器))
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する。

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験(実技)	30%	リズム奏・視唱・弾き歌い
	定期試験(筆記)	30%	聴音
	平常点	40%	積極的な取り組み、課題提出

科目名	アートマネジメント I	科目ナンバリング	MC1M4N23		
担当者	小西 たくま				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	アートマネジメント活動に対する認識を深め、自らコンサート等を企画立案し、上演を可能にすること。また、それらについての検証が行えるようにする。			
授業の概要	コンサートを含むイベントの企画立案、実施を可能にするノウハウを習得する。公演の上演に至る過程で必要な課題や役割を学ぶ。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	アートマネジメントの概要を識る	シラバスに目を通す	テキストによる確認作業
	2	プロデューサーの役割と業務①	テキストに目を通す	同上
	3	プロデューサーの役割と業務②	同上	同上
	4	企画書を作成する①	同上	同上
	5	企画書を作成する②	同上	同上
	6	スタッフの組織づくり	同上	同上
	7	制作スタッフの役割と業務	同上	同上
	8	劇場・ホールを識る	同上	同上

	9	劇場・ホールを選ぶ	同上	同上
	10	舞台の機構を識る①	同上	同上
	11	舞台の機構を識る②	同上	同上
	12	舞台における音響を識る	同上	同上
	13	舞台における照明映像を識る	同上	同上
	14	舞台美術を識る	同上	同上
	15	前期講義の総括とレポートの作成	同上	同上

使用教科書	KONISHI NOTE
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題・レポート	50%	前期講義内容の習得力。応用力。
平常点	50%	疑問点への取組。受講態度。課題への取組。	

科目名	アートマネジメントⅡ	科目ナンバリング	MC1M4N24		
担当者	小西 たくま				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	前期からの継続(後編)アートマネジメント活動に対する認識を深め、自らコンサートなどを企画立案し、上演すること。また、それらについての検証がおこなえるようにする。			
授業の概要	前期からの継続(後編)コンサートを含むイベントの企画立案、実施を可能にするノウハウを習得する。公演の上演に至る過程で必要な課題や役割を学ぶ。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	予算書を作成する①	テキストに目を通す	テキストによる確認作業
	2	予算書を作成する②	同上	同上
	3	スケジュールを作成する①	同上	同上
	4	スケジュールを作成する②	同上	同上
	5	舞台監督の役割と業務①	同上	同上
	6	舞台監督の役割と業務②	同上	同上
	7	音楽監督の役割と業務	同上	同上
	8	演出家の役割と業務	同上	同上

	9	舞台芸術と法律(著作権等)	同上	同上
	10	司会者の役割と業務	同上	同上
	11	フロントスタッフの役割と業務	同上	同上
	12	決算書の作成	同上	同上
	13	上演終了後の検証	同上	同上
	14	全体総括	同上	同上
	15	レポートの作成	同上	同上

使用教科書	KONISHI NOTE
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題・レポート	50%	講義内容の習得力。応用力。
	平常点	50%	疑問点への取組。受講態度。課題への取組。



科目名	ノーターション(楽譜浄書)	科目ナンバリング	MS1M1N35		
担当者	西林 博子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択			選択必修	ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	<p>市販の楽譜やオリジナル作品を楽譜として入力できる力をつける。 紙の楽譜ではできない編曲への応用ができるようになる。 試験曲の楽譜提出に役立つ 移調楽器でパート譜を作成できるようになる。 楽譜を書くだけでなく、自分の音楽能力を伸ばすためのツールとして利用(聴音問題の作成、和声の音と音符での確認等)できるようになる。</p>			
授業の概要	<p>音楽の記録として長年使用されてきた共通言語の「楽譜」をパソコンを使用し、きれいに正確に書いて印刷する。 様々な楽器、音楽スタイルに合わせた楽譜を作成する。</p>			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ノーターションとは MuseScoreでマウスによる音符の入力 調号、音部記号、拍子記号	シラバスを読んでおく	PCにインストールして課題に取り組む
	2	前回の復習 MIDIキーボードからの音符の入力 装飾音符	簡単なピアノ譜を準備	課題の復習
	3	前回の復習 パソコンのキーボードからの音符の入力	ピアノ譜作成に取り組む	課題の復習
	4	ラインの入力 スラー、クレッシェンド ペダル等	音符以外の情報を書き込む	課題の復習
	5	テキストの入力 タイトル、作詞、作曲 歌詞、コードネーム	歌詞、コードネーム入りの楽譜の準備	課題の復習
	6	ピアノ大譜表 持ってきたピアノ譜の入力	入力のためのピアノ譜面の準備	課題の復習
	7	ピアノ譜独特の記譜 譜表をまたぐ音符等	ピアノ譜に取り組む	課題の復習
8	2声、3声	2声、3声のピアノ譜を準備	課題の復習	

	9	2声のドラム譜 ドラム特有の符頭	バンド譜などでドラムパートのある楽譜の準備	授業での入力 の復習
	10	ギターについて TAB譜面	バンド譜などでギターパートのある楽譜の準備	授業での入力 の復習
	11	オーケストラスコア 移調楽器の説明 木管楽器、金管楽器 各国の楽器名について	オーケストラスコアの準備	レイアウトを意識 した楽譜の作成
	12	楽譜の見た目(レイアウト) 別のアプリケーションでデータを共有(WAVE,MIDI,PDFで保存)	見た目のきれいな楽譜に編集	課題の復習
	13	Sibelius MuseScoreに似た有料アプリケーション、さらに便利な機能	違うアプリケーションに慣れる	課題の復習
	14	前回の復習 MIDIキーボードからの音符の入力 装飾音符	違うアプリケーションに慣れる	課題の復習
	15	Finale UI(ユーザーインターフェイス)の異なるアプリケーション	違うアプリケーションに慣れる	課題の仕上げ、 提出

使用教科書	プリント配布
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題楽譜提出	80%	課題曲、自由曲の楽譜
	課題／楽譜	10%	課題を習得・練習
	平常点(態度)演奏活動	10%	授業中の指示に対する正しい操作、質問など

科目名	メディアデザイン I	科目ナンバリング	MC1M4N27		
担当者	浅川 浩二				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDEF
備考	※サウンドデザインコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	インターネットの台頭と共にその表現のメソッドが広がり、単純に演奏力だけでは、十分な訴求力をもった活動が難しい時代となりました。ネットメディアは全ての表現者にとって先ず基礎的知識として習得すべきものになったとも言え、これらの知識を体験を通じて習得することを目的とします			
授業の概要	インターネットを総合的表現媒体として捉え、セルフプロモート能力の向上を目指し、SNS、ウェブサイト、クラウド技術などを習得し、マルチメディア表現力の向上を図る			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	インターネット・プロモーションの現在 ネット上のアーティストのプロモーション例	ネットによるアーティストサイト閲覧	事例等確認
	2	インターネット・プロモーションの現在 ネット上のアーティストのプロモーション例	ミュージシャンサイトの閲覧と要点の把握	ミュージシャンサイトの再確認
	3	バーチャル・ミュージシャン 各自のコンセプトに基づいた仮想アーティスト	コンセプトの構成を練る	コンセプトの再確認と修正
	4	ロゴマーク作成 グラフィックソフトによる制作	ミュージシャンのロゴなどの確認	グラフィックソフトの使い方の復習
	5	バナー制作 グラフィックソフトによる制作	グラフィックソフトの利用法の確認	グラフィックソフトの使い方の復習
	6	ブログ制作1 ブログ設置及び運用	ミュージシャンブログの閲覧	ブログの管理などの復習
	7	ブログ制作2 ブログ設置及び運用	修正点などのアイデアの確認	ブログ内容の修正
	8	Facebookプロモーション FBの仕組みと設置等	Facebookサイトの確認	設置サイトの確認と修正

	9	MySpace等SNSへの登録 MySpace等音楽SNSの運用	MySpceの確認	設置サイトの確認 と修正
	10	音響特性について 音響上の特性等講義	ウェブ上で扱う音 楽ファイルフォー マットについて	サウンドエディット ソフトによる確認
	11	オリジナルホームページ作成1 Wixを利用したオリジナルウェブの制作	Wixの仕様の確認	仕様の確認と修 正
	12	オリジナルホームページ作成2 Wixを利用したオリジナルウェブの制作	制作サイトの管理 確認	サイト内容におけ る確認と修正
	13	ウェブパブリッシングの実情と実践1 ウェブプロモーションの実体講義	ネット上のプロ モーション確認	実践後の確認
	14	ウェブパブリッシングの実情と実践2 ウェブプロモーションの実体講義	ネット上のプロ モーション確認2	実践後の修正
	15	全体のまとめと修正	既習内容の確認	既習内容の実践

使用教科書	はじめてのビデオ編集 : Windows7 &ムービー,
	メーカー対応版 [単行本]
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題/レポート	50%	制作レポート ブログ及びロゴ等制作物
	平常点	30%	課題提出 出席率及び授業態度
	期末試験	20%	制作物ウェブ・サイト等最終制作物提出

科目名	メディアデザインⅡ	科目ナンバリング	MC1M4N28		
担当者	浅川 浩二				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABCDEF
備考	※サウンドデザインコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	現代のクリエイターにとって音楽と映像は切っても切れないコンテンツとなりつつある。これは表現媒体の違いではあるが音楽家という枠を越えてクリエイターとしての表現力をつけるために必須のテーマとして捉えることが出来る			
授業の概要	サイバーリンクのPowerDirectorを利用し、動画制作の基礎から応用までを演習する。映像はその特性から音、画像、動画など様々なメディアを駆使した総合芸術と捉えることが出来る反面、履修すべき課題は多い。このため各自の自主的演習の時間を作るが必要となる			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	映像制作の基礎知識1 映画等作品における監督の役割など	映画等作品鑑賞 時コマ割りなどを意識する	映像におけるコンセプトなどの確認
	2	映像制作の基礎知識2 プロモーションビデオなど制作過程	映像のコンセプトなどを意識して鑑賞	多種多様なプロモビデオの鑑賞
	3	映像制作における撮影技術の基礎知識1 映像用カメラの説明と使用	カメラの基礎的知識の予習	スマートフォンでの撮影などへの応用
	4	映像制作における撮影技術の基礎知識2 撮影時レイアウトや露出などの講義	カメラの機能の予習	スマートフォン等での実践実験
	5	Youtube登録実験 ムービー登録作業	Youtubeアカウントの作成等	アカウントの確認
	6	写真撮影の基礎と実践1 写真の基礎的知識の講義	デジタルカメラの基礎的知識の予習	所有カメラでの実験等
	7	写真撮影の基礎と実践2 写真のフレーミングや露出関連講義	フレーミングなどの予習	所有カメラでの実験等
	8	写真加工の基礎と実践1 写真と映像の加工についての講義	写真加工サイトのリサーチ	加工サイトにおける実験

	9	写真加工の基礎と実践2 写真加工実践	写真加工サイトの リサーチ及び登録	加工サイトにおけ る実験
	10	動画撮影の基礎知識 動画撮影時における基礎知識	動画カメラについ ての予習	動画カメラの利用 における要点の 復習
	11	動画撮影の実践1 動画撮影	動画撮影の基礎 知識の予習	所有カメラでの実 験等
	12	動画撮影の実践2 動画撮影	ビデオカメラにつ いての知識の修 練	所有カメラでの実 験等
	13	動画編集1 動画編集の基礎的演習	編集ソフトに関し ての予習	所有ソフト等での 実験
	14	動画編集2 動画編集	用語関連の予習	所有ソフト等での 実験
	15	全体のまとめと修正	既習内容の確認	既習内容の実践

使用教科書	はじめてのビデオ編集 : Windows7 &ムービー,
	メーカー対応版 [単行本]
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題/レポート	50%	制作レポート ブログ及びロゴ等制作物
平常点	30%	課題提出 出席率及び授業態度	
期末試験	20%	制作物ウェブ・サイト等最終制作物提出	